



取扱説明書

XMAX 250

モーターサイクル

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

CZD250-A

BG6-F8199-J0

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（スクーターをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警告	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。
注意	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために	1-1
あなた自身と同乗者のために	1-1
歩行者と他の車のために	1-5
環境・住民の方との調和のために	1-6

各部の名称	2-1
左側面	2-1
右側面	2-2
運転装置と計器類	2-3

スマートキーシステム	3-1
スマートキーシステムの概要	3-1
スマートキーシステムの作動範囲	3-2
スマートキーおよび	
メカニカルキーの取り扱い	3-3
スマートキー操作のしかた	3-5
スマートキーの電池交換のしかた	3-6
メインスイッチ	3-7

各部の取り扱いと操作	4-1
警告灯と表示灯	4-1
スピードメーター	4-2
タコメーター	4-3
マルチファンクション	
ディスプレイ	4-3
盗難警報器（別売アクセサリ）	4-10
ハンドルスイッチ	4-11
フロントブレーキレバー	4-13
リヤブレーキレバー	4-13
ABS	4-14
トラクションコントロール	
システム	4-15
フューエルタンクキャップ	4-16
燃料	4-18
ヘルメットホルダー	4-18
書類入れ	4-19
小物入れとトランク	4-19
ウインドシールド	4-21
ハンドル位置の調整	4-24
リヤクッションの調整	4-24
スタンディングハンドル	4-25
サイドスタンド	4-26
イグニッションサーキット	
カットオフシステム	4-26
DC ジャック	4-28

日常点検	5-1
日常点検の実施	5-1
日常点検箇所／点検内容	5-1

運転操作	6-1
エンジン始動	6-1
発進	6-2
加速と減速	6-3
ブレーキ	6-3
ならし運転	6-4
駐車	6-5

点検整備	7-1
点検整備の実施	7-1
サービストール	7-2
カバーの取り外し、取り付け	7-2
エンジンオイル	7-3
ファイナルギヤオイルの交換時期	7-5
エンジンのかかり具合、	
異音の点検	7-5
低速、加速の状態の点検	7-6
冷却水	7-6
エアクリーナーエレメント、	
Vベルトフィルターエレメント	7-8
タイヤ	7-11
ブレーキレバーの遊び、	
きき具合の点検	7-13
ブレーキパッドの点検	7-13
ブレーキ液量の点検	7-14
バックミラー	7-14
車体各部の給油脂状態の点検	7-15
バッテリー	7-15
ヒューズ交換	7-17
灯火装置および方向指示灯の点検	7-18
運行において異常が認められた	
箇所の点検	7-19
こんなときは	7-19
スマートキーシステムの	
エマージェンシーモード	7-21

お車の手入れ	8-1
洗車	8-1
キャストホイールの取り扱い	8-2
ウインドシールドの取り扱い	8-3
保管のしかた	8-3
アフターケア用品について	8-4

製品仕様	9-1
------------	-----

ユーザー情報	10-1
--------------	------

二輪車を廃棄する場合は？	10-1
--------------------	------

サービスマニュアル（別売）の 紹介	10-2
----------------------------	------

車両情報	10-2
------------	------

索引	11-1
----------	------

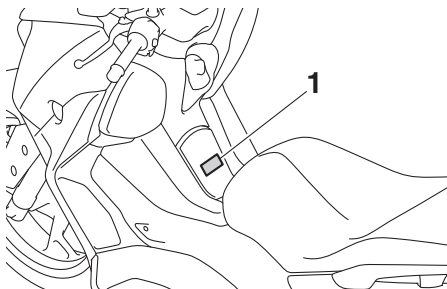
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。安全運転とは、交通ルールを守ることでだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

警告

- ・取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ・ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- ・マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ・ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- ・違法改造はやめましょう。
- ・定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合って、圧迫感のないものが最適です。



- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
 - ・ 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
 - ・ 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
 - ・ スポンのすそや袖口の広い服

- 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
- ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服



- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

JWA11601

警告

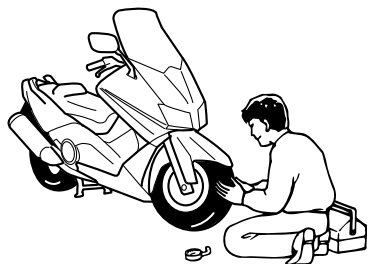
ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた1年、2年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。

安全運転のために

1



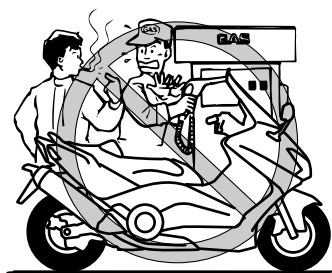
車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

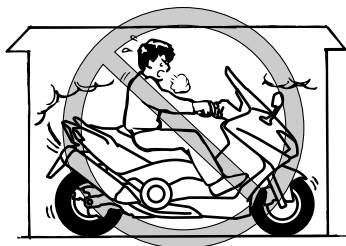
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



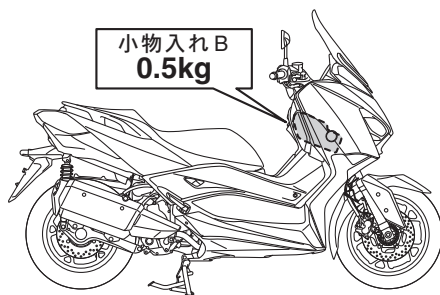
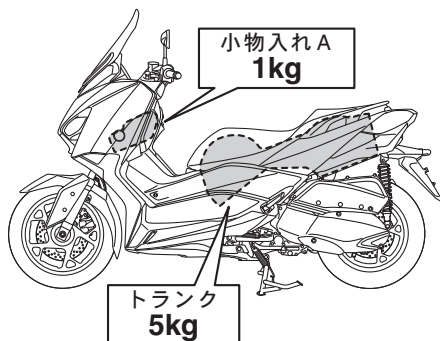
風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



荷物を積むときは

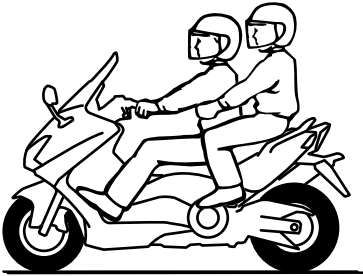


- 上記以外の場所には荷物を積まないでください。
- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物を積みすぎると、ハンドルが振られたりして危険ですので、積みすぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。

- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

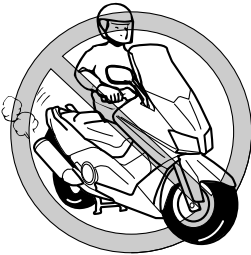
両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



押して移動するときはエンジンを止める

車から降りて押して移動するときはエンジンを止めてください。
やむをえずエンジンをかけたまま移動するときは、スロットルグリップを不用意に回さないようにするため、必ず右手でスタンディングハンドルを持って行ってください。
スロットルグリップを持って行くとおもわぬ事故の原因となります。

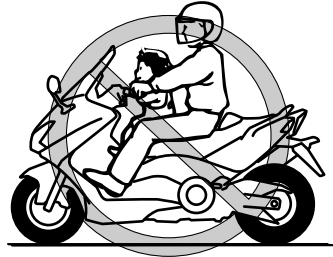


乗車定員は2名

ただし、免許取得後1年未満の運転者は、法令により2人乗りはできません。

また、高速道路（2人乗りが許可されている高速道路）においては、20才以上で、免許取得後3年を経過した運転者でなければ2人乗りはできません。

タンデムシート以外の場所には人を乗せないでください。



急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

安全運転のために

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15221

注意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

自賠責保険に必ず加入

自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。

また、保険の期限切れにも注意してください。

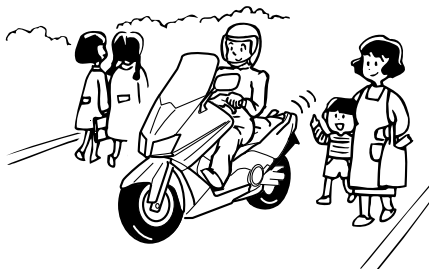


歩行者と他の車のために

JAU66240

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



駐車

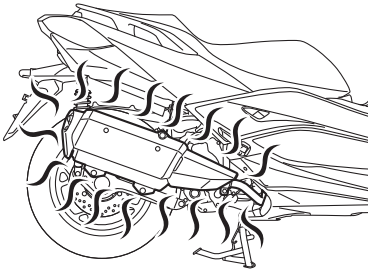
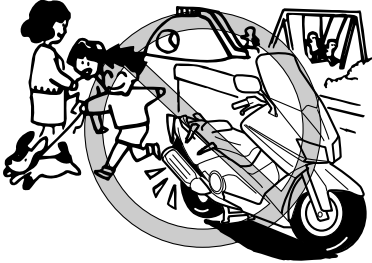
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、スマートキーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- サイドスタンドを使用して駐車するときは、車が停止してからハンドルを左に切ってください。

JWA12241

警告

- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。

- マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。



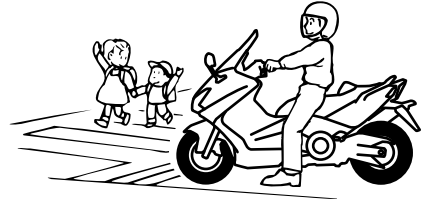
昼間はヘッドライトを下向きに

この車両は自動昼間点灯仕様です。エンジンがかかっている間は点灯しつづけます。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

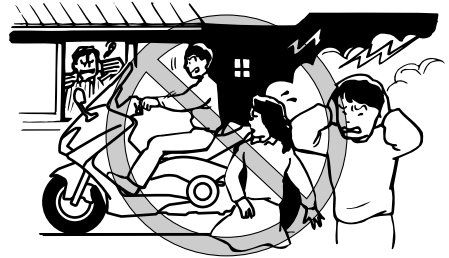
環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。



特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。

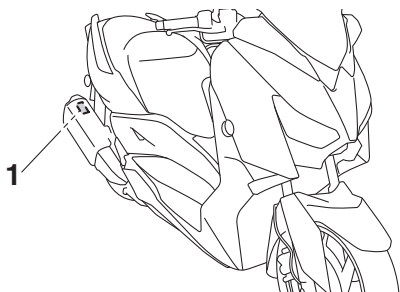


違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。

安全運転のために

1



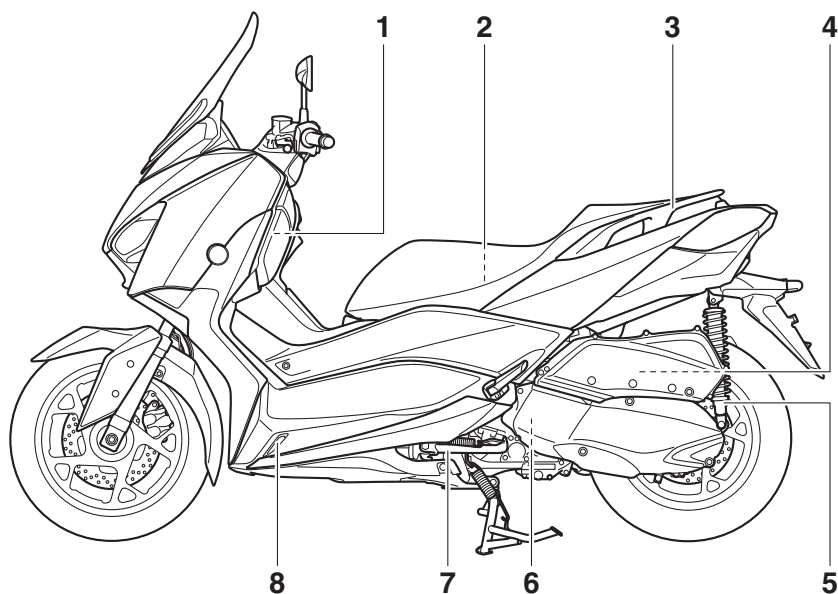
1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの
廃棄処理をするときは、環境保護のためお買
いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

左側面

2



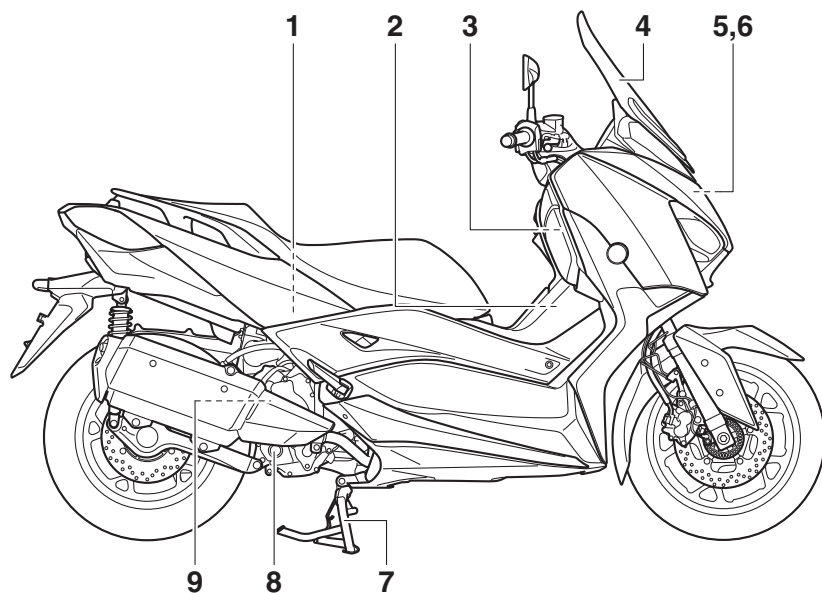
1. 小物入れ A (P4-19)
2. サービスツール (P7-2)
3. スタンディングハンドル (P4-25)
4. エアクリーナーエレメント (P7-8)
5. スプリングプリロードアジャスター (P4-24)
6. V ベルトフィルターエレメント (P7-8)
7. サイドスタンド (P4-26)
8. リカバリータンク (P 7-6)

各部の名称

JAU63391

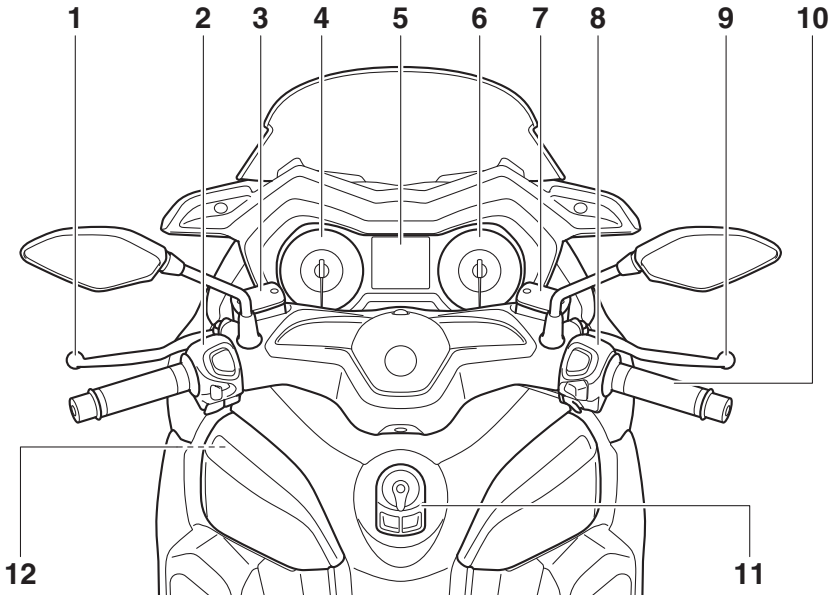
右側面

2



1. トランク (P4-19)
2. フューエルタンクキャップ (P4-16)
3. 小物入れ B (P4-19)
4. ウインドシールド (P4-21)
5. バッテリー (P7-15)
6. ヒューズ (P7-17)
7. メインスタンド
8. エンジンオイル点検窓 (P7-3)
9. オイル注入口 (P7-3)

運転装置と計器類



2

1. リヤブレーキレバー (P4-13)
2. ハンドルスイッチ (左) (P4-11)
3. リヤブレーキリザーバータンク (P7-14)
4. スピードメーター (P4-2)
5. マルチファンクションディスプレイ (P4-3)
6. タコメーター (P4-3)
7. フロントブレーキリザーバータンク (P7-14)
8. ハンドルスイッチ (右) (P4-11)
9. フロントブレーキレバー (P4-13)
10. スロットルグリップ (P6-3)
11. メインスイッチ (P3-7)
12. DC ジャック (P 4-28)

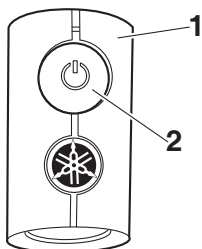
スマートキーシステム

JAU76444

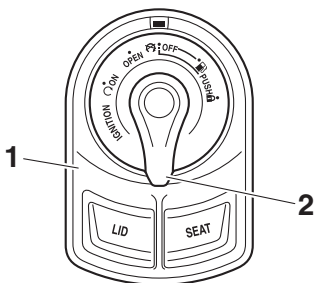
スマートキーシステムの概要

スマートキーシステムは、スマートキーを持っていることにより、メカニカルキーを取り出すことなく次の操作が可能になるシステムです。また、駐車場で車を見つけるのに役立つアンサーバック機能付きです。

- 電源の ON/OFF
- エンジンの始動と停止
- ハンドルロックの解除 / 施錠
- シートロックの解除
- 小物入れ A の解除
- フューエルタンクキャップリッドの解除



1. スマートキー
2. スマートキーボタン



1. メインスイッチ
2. メインスイッチノブ

要 点

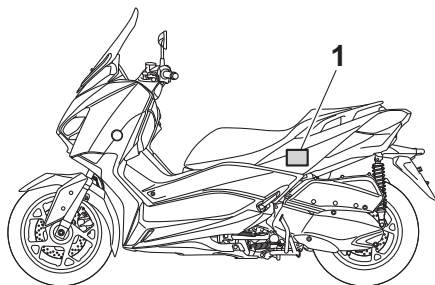
- 長期間使用しなかったとき、またはバッテリーを取り外して再接続したときなど、車両の電源を ON にしてエンジンを始動する前に、システムの関係から自動的に電源が OFF になることがあります。このようなときは、再度車両の電源を ON にしてからエンジンを始動してください。

- 最後に車を使用してから（車両の電源を ON から OFF にしてから）約 9 日間経過すると、バッテリー保護のためスマートキーの使用ができなくなります。この状態のとき電源を ON にすると、エンジンを始動する前にシステムの関係から、自動的に電源が OFF になります。このようなときは、再度車両の電源を ON にすると、エンジンを始動することができます。

JWA20570

警告

植え込み型心臓ペースメーカーを装着されている方は、車載アンテナ（イラスト参照）から約 22cm 以内に植え込み型心臓ペースメーカーが近づかないようにしてください。スマートキーシステムは、トランクの左側に設置されたアンテナを使用して微弱電波を発信しています。この電波により、植え込み型心臓ペースメーカーや植え込み型除細動器などの医療機器の作動に影響を与えるおそれがあります。その他の医療用電子機器をご使用のお客様は、医師や医療用電気機器製造業者などに影響の有無を確認してからご使用ください。



1. 車載アンテナ

JCA24080

注意

スマートキーシステムは、微弱な電波を使用しています。次のようなときはスマートキーシステムが正常に作動しないことがあり、各種ロックの解除や電源の ON などができないことがあります。

- 強い電波、ノイズのある場所に置いたとき。

スマートキーシステム

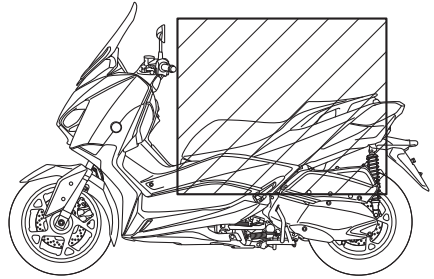
- 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など、強い電波を発する設備があるとき。
- スマートキーを、携帯電話や無線機などの通信機器と一緒に携帯しているとき、または使用しているとき。
- スマートキーが金属物に触れていたり、覆われているとき。
- スマートキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき。
- 近くで他の車がスマートキーシステムを使用しているとき。

このようなときはスマートキーの場所を移動して、再度操作を行ってください。それでも作動しないときは、エマージェンシーモード（7-21 ページ参照）で操作を行ってください。

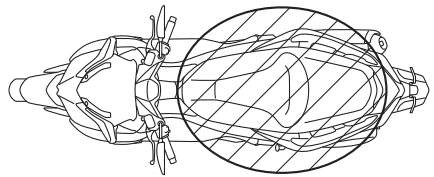
JAU76451

スマートキーシステムの作動範囲

車がスマートキーの所在を確認して認証するときの作動範囲は、およそ下図の範囲です。



3



要 点

- スマートキーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が広がったり狭くなったりすることがあります。
- スマートキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所などでは、作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。
- スマートキーが地面の近くや高い位置にある場合は、作動しないことがあります。スマートキーシステムが作動しない場合は、3-5 ページのスマートキー操作のしかたを参照し、スマートキーがアンロックになっていることを確認します。
- スマートキーの持ち方により、作動しにくいことがあります。
- スマートキーがロック状態の場合、スマートキーを持っていてもスマートキーシステムは作動しません。スマートキーシステ

スマートキーシステム

ムが作動しない場合は、スマートキーのロック／アンロック状態を確認してください。

- トランク内は、スマートキーの作動範囲外となる場合があります。また、トランク内にスマートキーを入れた状態でロックした場合、スマートキーが閉じ込められ、スマートキーシステムを使用できなくなる可能性があります。スマートキーは必ず、運転者が携帯してください。
- スマートキーを車に置き忘れると、車両盗難につながるおそれがあります。車から離れるときは、盗難予防のために必ずハンドルロックを掛け、スマートキーを持って離れてください。そのとき、スマートキーをロックの状態にすることをおすすめします。

3

JAU178623

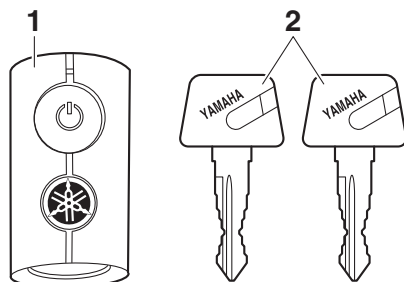
スマートキーおよびメカニカルキーの取り扱い

JWA17952

警告

- スマートキーは、運転者が必ず携帯してください。
- スマートキーが作動範囲内にあると、スマートキーを身につけていない人でもエンジンの始動やシートロックの解除、ハンドルロックの解除／施錠が可能ですので、充分に注意してください。

- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないよう、充分に注意してください。
- この車には、スマートキー 1 個、メカニカルキー 2 本、ID 番号カード 1 枚が付属しています。ID 番号はスマートキー本体の内部にも表示してあります。メカニカルキーと ID 番号カードは、車の保管場所とは別に大切に保管してください。また、ID 番号カードの紛失に備えて、ID 番号をメモなどに控えておくことをおすすめします。

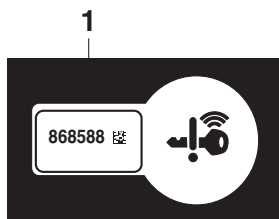


1. スマートキー
2. メカニカルキー

- 車両のバッテリー電圧が低下している場合は、メカニカルキーを使用してシートを開けることができます。スマートキーと一緒にメカニカルキー 1 本を携帯してください。
- スマートキーと ID 番号カード (ID 番号の控えを含む) を全て紛失または破損したときは、スマートキーシステム全体の部品交換になります。詳しくは販売店にご相談ください。

- また ID 番号カードにもスマートキーの ID 番号（6 桁数字）が記されています。緊急時にはこのスマートキーの ID 番号（6 桁数字）を入力することで、スマートキーを使用せずに各種ロックの解除やエンジン

ンの始動が可能になります。緊急時の操作方法については、7-21 ページのエマージェンシーモードを参照してください。



1. ID 番号カード

JCA21573

注意

スマートキーは、信号を発信するための精密な電子部品を内蔵しています。故障の原因となりますので、以下のことを守ってください。

- 小物入れにスマートキーを置いたり収納したりしないでください。振動や過度な熱によりスマートキーが損傷するおそれがあります。
- 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
- 水に濡らさないでください。
- 重いものを上に置かないでください。
- 直射日光が当たる場所や、高温、多湿になるところに放置しないでください。
- 火であぶったりしないでください。
- 削ったり、穴を開けたりしないでください。
- 超音波洗浄器などで洗浄しないでください。
- 磁気を帯びたキーホルダーなどを近づけないでください。

- テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かないでください。
- 低周波治療器などの医療用電気機器の近くに置かないでください。
- ガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着しないようにしてください。変形したり、ひび割れたりすることがあります。
- シールを貼らないでください。

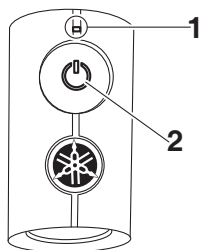
要 点

- スマートキーは車から離れているときも電池を消耗しています。
- 電池の寿命は使用状況により異なりますが、約 2 年程度です。（全く使用しなくても電池は消耗します。）
- 車両の電源を ON にした時にメーターのスマートキーシステム表示灯が点滅（約 20 秒）した場合は、新しい電池に交換してください。（電池交換のしかたは、3-6 ページ参照）
- スマートキーは電波を受信し続けた場合、それに反応して電池を著しく消耗することがあります。（例：テレビやパソコンなどの電気製品の近くに置いているとき）
- スマートキーボタンを押してもスマートキー表示ランプが点灯しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。電池を交換しても直らない場合は、販売店にご相談ください。
- 予備のスマートキーが必要な場合は、販売店にご相談ください。スマートキーは、同じ車に最大 6 個まで登録することができます。
- スマートキーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちにヤマハ販売店にご相談ください。

スマートキーシステム

JAU83240

スマートキー操作のしかた



1. スマートキー表示ランプ
2. スマートキーボタン

スマートキーのロック／アンロック切替

スマートキーを使用できる状態（アンロック）にするか、使用できない状態（ロック）にするかの切替方法です。

スマートキーボタンを長押し（1 秒以上）することで、スマートキーの通信モードを切り替えることができます。

- スマートキー表示ランプが1 回点滅したとき・・・スマートキーがアンロックの状態になりました。（スマートキーシステムを使用できます）
- スマートキー表示ランプが長めに1 回点滅したとき・・・スマートキーがロックの状態になりました。（スマートキーシステムを使用できません）

スマートキーのロック／アンロック状態を確認する

スマートキーボタンを短押し（1 秒以内）することで、現在の通信モードの状態をスマートキー表示ランプによって確認することができます。

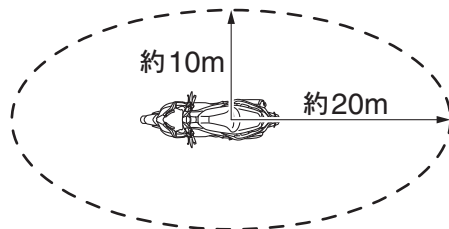
- スマートキー表示ランプが1 回点滅したとき・・・アンロック状態になっています。
- スマートキー表示ランプが長めに1 回点滅したとき・・・ロック状態になっています。

アンサーバック機能

スマートキーボタンを押してアンサーバック機能を遠隔操作すると、ブザーが2 回鳴ります。この機能は駐車場やその他の場所で自分の車を見つけるのに便利です。

遠隔操作範囲

スマートキーでアンサーバックの遠隔操作を行うことができる範囲は、およそ下図の範囲です。



要 点

スマートキーは微弱な電波を使用しているため、周囲の状況により操作範囲が変化することがあります。（3-2 ページを参照）

アンサーバックブザーのオンとオフの切替

アンサーバック機能が作動したときに鳴るブザーは、以下の手順に従ってオンまたはオフに切り替えることができます。

1. スマートキーをアンロック状態にして、作動範囲内に移動します。
2. メインスイッチを OFF にし、メインスイッチノブを1 回押します。
3. ノブを押して9 秒以内に、もう一度ノブを長押し（5 秒）します。
4. ブザーが鳴ると、設定が完了します。

- ブザーが1 回：アンサーバックブザーがオンに設定されました。
- ブザーが2 回：アンサーバックブザーがオフに設定されました。

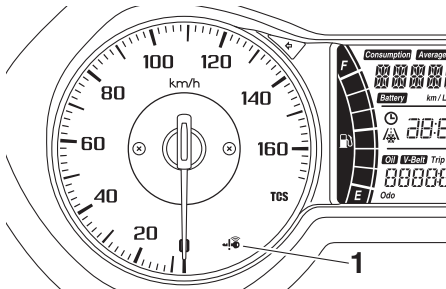
スマートキーシステム

JAU76481

スマートキーの電池交換のしかた

次のようなときは電池残量が少なくなっているため、新しい電池と交換してください。

- 車両の電源を ON にしたときに、スマートキーシステム表示灯が約 20 秒間点滅するとき。
- スマートキーボタンを押してもアンサーバック機能が作動しないとき。



1. スマートキーシステム表示灯 “”

警告

JWA14724

- 電池および取り外した部品は小さいため、子供が誤って飲み込み、傷害を受けるおそれがあります。電池および取り外した部品を、子供の手が届くところに置かないでください。
- 電池を直射日光に当てたり、熱源に近づけるなどしないでください。

JCA15784

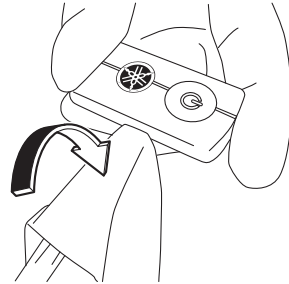
注意

- ドライバーなどにウエスをあてながら、部品を取り外してください。硬いものを直接あてがうと、本体に傷をつけるおそれがあります。
- 電池の+極と-極は必ず、正しく取り付けてください。
- 防水シール部分の傷つきや、ゴミの混入に注意してください。耐水性能の低下や、故障の原因となります。
- 内部の回路や端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- 電池交換の際、本体に無理な力を加えないでください。

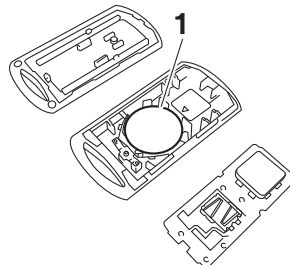
- 電池交換後は、スマートキーシステムの各機能が正常に作動するか必ず、確認してください。

電池交換のしかた

1. 図のようにスマートキーのケースを開けます。



2. 電池を取り外します。



1. 電池

要点

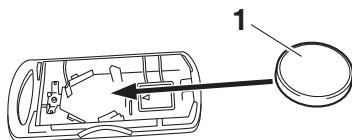
取り外した電池は、電池の説明書や各自自治体の規則に従って処分してください。

3. 電池を新しいものと交換します。電池の取り付け方向（表裏）に注意してください。

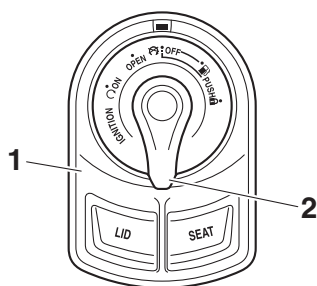
使用電池：

ボタン電池 CR2032×1 個

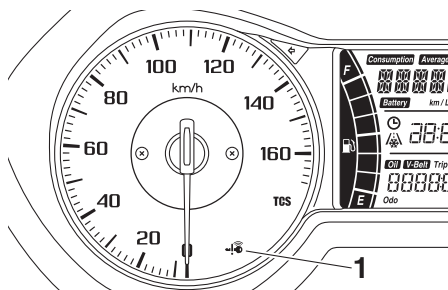
メインスイッチ



- 3 1. 電池
4. スマートキーのケースを閉じます。



1. メインスイッチ
2. メインスイッチノブ



1. スマートキーシステム表示灯 “”

メインスイッチは車両の電源の ON と OFF、ハンドルロック操作とシート・フューエルタンクキャップリッド・小物入れ A のロック解除を行います。メインスイッチノブを押してスマートキーが認証された後、スマートキーシステム表示灯が点灯している間（約 4 秒）メインスイッチを回すことができます。

JWA18720

警告

走行中にメインスイッチを OFF、“”、“OPEN” の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

要 点

メインスイッチノブを何度も押さないでください。メインスイッチノブを何度も押すと、メインスイッチを保護するためにスマートキーシステムは一時的に無効となり、ス

スマートキーシステム

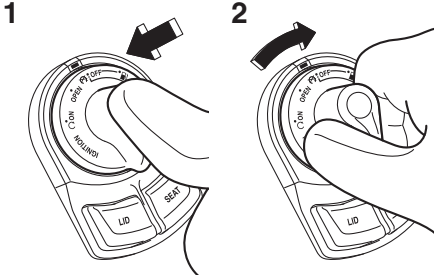
JAU83260

スマートキーシステム表示灯が点滅します。この場合、表示灯が消灯してからメインスイッチを再び操作してください。

メインスイッチの位置は以下のとおりです。

ON

JAU83250



1. 押す
2. 回す

全ての電気回路に電源が供給され、エンジンを始動させることができます。

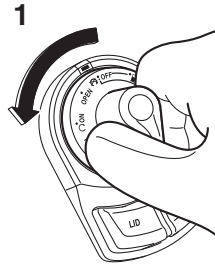
車両の電源の ON のしかた

1. スマートキーをアンロック状態にして、作動範囲内に移動します。
2. メインスイッチノブを押すとスマートキーシステム表示灯が約4秒間点灯します。
3. スマートキーシステム表示灯が点灯中にメインスイッチを ON にすると、車両の電源が ON になります。

要 点

スマートキーを使わずに車両の電源を ON するには 7-21 ページのエマージェンシーモードを参照してください。

OFF



1. 回す

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。

車両の電源の OFF のしかた

1. スマートキーをアンロック状態にして作動範囲内に移動し、メインスイッチを OFF にします。
2. 車両の電源が OFF になります。

要 点

メインスイッチを OFF にしたとき、スマートキーが認識できない（スマートキーが作動範囲外もしくはオフになっている）場合、ブザーが 3 秒間鳴り、スマートキーシステム表示灯が 30 秒間点滅します。

- スマートキーシステム表示灯が点滅している 30 秒間はメインスイッチを操作できません。
- 30 秒後、車両の電源は自動的に OFF になります。
- 車両の電源をすぐに OFF にする場合は、メインスイッチノブを 2 秒以内に 4 回押します。

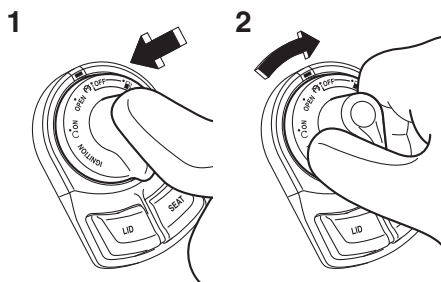
JAU79042

OPEN

メインスイッチに電源が供給されます。シートと小物入れ A を開くことができます。

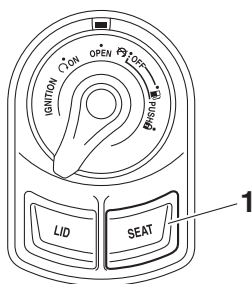
スマートキーシステム

シートと小物入れ A の開けかた

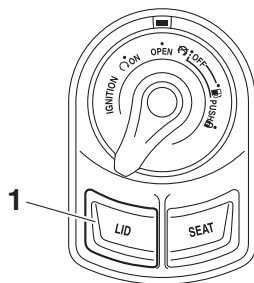
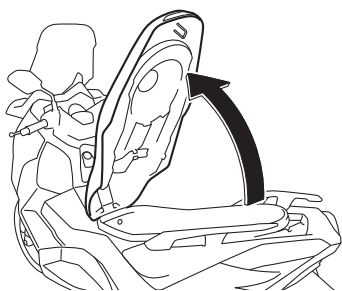


1. 押す
2. 回す

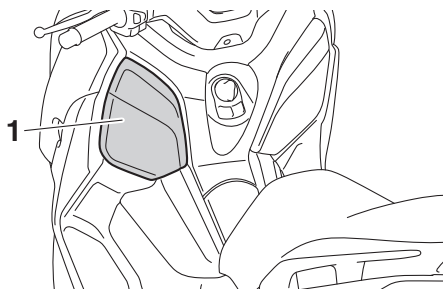
1. スマートキーをアンロック状態にして作動範囲内に移動し、メインスイッチノブを押します。
2. スマートキーシステム表示灯が点灯中にメインスイッチを OPEN にします。
3. シートを開ける場合は“SEAT”ボタンを押して、シート後部を持ち上げます。



1. “SEAT” ボタン



1. “LID” ボタン



1. 小物入れ A

要 点

走行前に、必ず、シートと小物入れ A が確実にロックされているか確認してください。

OPEN 放置警告機能

メインスイッチを OPEN にした状態の車両の電源切り忘れを防ぐため、以下の条件でスマートキーシステムのブザーが鳴ります。

- メインスイッチを OPEN にしたまま 3 分間放置したとき
 - ・・・メインスイッチを OFF または「」にしてください。
- メインスイッチを OPEN にしたままスマートキーをロック状態にしたとき
 - ・・・スマートキーをアンロック状態にしてください。
- メインスイッチを OPEN にしたままスマートキーを作動範囲外にしたとき
 - ・・・スマートキーを作動範囲内に移動してください。

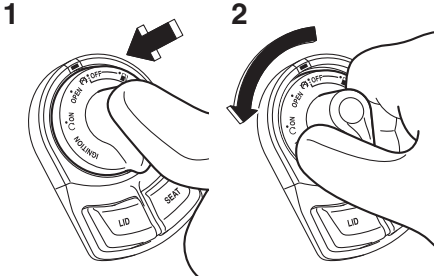
スマートキーシステム

要 点

- ブザーは 1 分後に停止します。
- シートはメカニカルキーでも開けることができます。(4-19 ページを参照)

“” (ロック)

JAU76521



1. 押す
2. 押し回し

ハンドルがロックされます。全ての電気回路がオフになります。

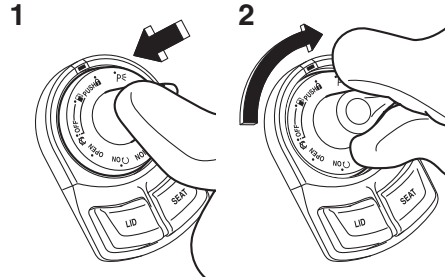
ハンドルロックのしかた

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. スマートキーをアンロック状態にして作動範囲内に移動し、メインスイッチノブを押します。
3. スマートキーシステム表示灯が点灯中にメインスイッチを“”にします。

要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらメインスイッチノブを回します。

ハンドルロックの解除のしかた



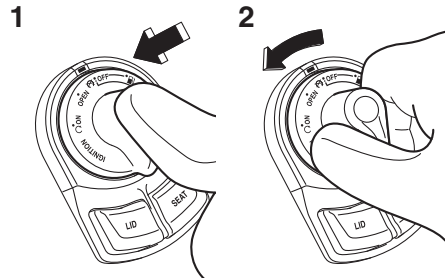
1. 押す
2. 押し回し

1. スマートキーをアンロック状態にして作動範囲内に移動し、メインスイッチノブを押します。
2. スマートキーシステム表示灯が点灯中にメインスイッチノブを任意の位置に回します。

“” (フューエルタンクキャップリッド)

JAU79000

フューエルタンクキャップリッドの開けかた



1. 押す
2. 回す

1. スマートキーをアンロック状態にして作動範囲内に移動し、メインスイッチノブを押します。
2. スマートキーシステム表示灯が点灯中にメインスイッチを“”にします。

スマートキーシステム

フューエルタンクキャップリッドの閉めか
た
リッドを押し下げて、元の位置まで戻しま
す。

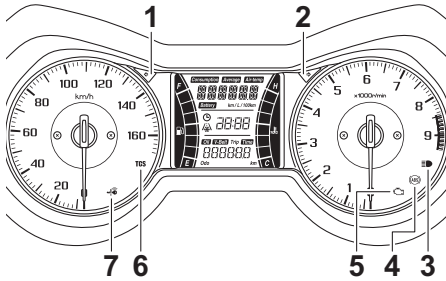
要 点

発進前に、フューエルタンクキャップリッド
が確実に閉まっているか確認してください。

各部の取り扱いと操作

警告灯と表示灯

JAU4939D



1. 方向指示器表示灯（左）“◁”
2. 方向指示器表示灯（右）“▷”
3. ヘッドライト上向き表示灯 “≡〇”
4. ABS 警告灯 “(ABS)”
5. エンジン警告灯 “⚠”
6. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”
7. スマートキーシステム表示灯 “🔑”

方向指示器表示灯 “◁”/“▷”

JAU11032

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU11081

ヘッドライト上向き表示灯 “≡〇”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU78180

エンジン警告灯 “⚠”

エンジンや車両の制御システムに異常が発生すると、この警告灯が点灯します。ヤマハ販売店で点検を受けてください。

メインスイッチを ON にすると、警告灯の電気回路の点検が行われます。警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。

メインスイッチを ON にしても警告灯が点灯しない場合や、点灯したままの場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU78171

ABS 警告灯 “(ABS)”

通常、メインスイッチを ON にすると ABS 警告灯が点灯し、時速 10 km/h 以上で走行すると消灯します。

次のような場合、ABS が正しく機能しない可能性があります。

- メインスイッチを ON にしても、警告灯が点灯しない場合

- 乗車中に、警告灯が点灯もしくは点滅した場合
- 時速 10 km/h 以上で走行しても、警告灯が消灯しない場合

これらのいずれかの場合は、速やかにヤマハ販売店で点検を受けてください。（ABS の詳細は、4-14 ページを参照してください。）

JWA16041

警告

10 km/h 以上の速度で走行しても ABS 警告灯が消灯しない、または走行中に ABS 警告灯が点灯または点滅したときは、ブレーキシステムは通常のブレーキの状態になっています。上記のどちらかが起こった場合、または ABS 警告灯が全く点灯しない場合は、急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

要 点

メインスタンドを立てた状態でエンジンの回転を上げると、ABS 警告灯が点灯することがありますが、これは異常ではありません。この場合は、メインスイッチを OFF にしてから再度 ON にして警告灯を消灯させてください。

JAU78591

トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”

トラクションコントロールシステムが作動すると点滅し、OFF になると点灯します。（4-15 ページを参照）

メインスイッチを ON にしたとき、表示灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。

メインスイッチを ON にしたときに表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JAU78600

スマートキーシステム表示灯 “🔑”

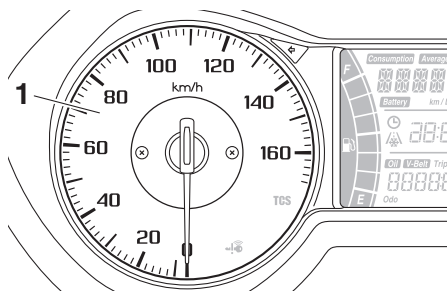
スマートキーシステムが正常に作動している場合、この表示灯は消灯しています。車両とスマートキーとの通信が確立しているとき、またはスマートキーに関連する操作が行

各部の取り扱いと操作

われたとき、この表示灯は点滅します。スマートキーシステムにエラーが発生したときも、表示灯は点滅します。

JAU63544

スピードメーター



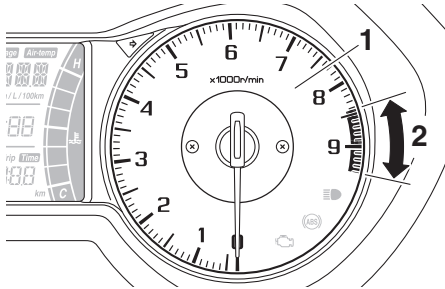
1. スピードメーター

スピードメーターは、車の速度を示します。車両の電源がONになると、電気回路のチェックのため、指針が一旦最大値まで動き、ゼロに戻ります。

各部の取り扱いと操作

JAU63551

タコメーター



1. タコメーター
2. レッドゾーン

毎分のエンジン回転数を示します。
電気回路のチェックのため、車両の電源をON
にすると、指針が一旦最大値を示し、“0”に
戻ります。

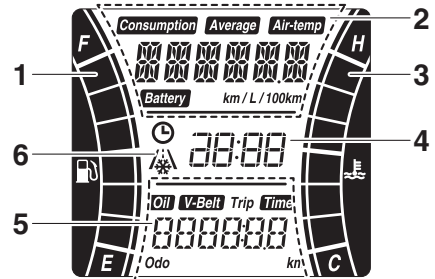
JCA10032

注意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入ら
ないようにしてください。
レッドゾーン：8400 r/min 以上

JAU79171

マルチファンクションディスプレイ



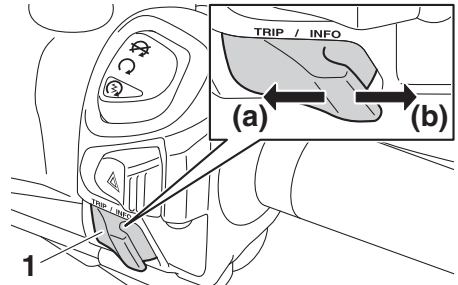
1. 燃料計
2. 情報ディスプレイ
3. 水温計
4. 時計
5. トリップメーター表示
6. 路面凍結警告表示 “”

JWA12161

警告

表示の切り替え、時刻調整などの操作は、必
ず停車中に行ってください。

“TRIP/INFO” スイッチは右ハンドルにありま
す。このスイッチでマルチファンクション
メーターの設定ができます。“TRIP” スイッチ
を使用するには、“TRIP/INFO” スイッチを (a)
方向に動かします。“INFO” スイッチを使用す
るには、“TRIP/INFO” スイッチを (b) 方向に
動かします。



1. “TRIP/INFO” スイッチ

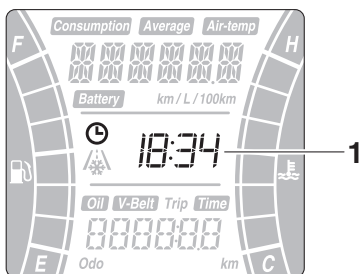
マルチファンクションディスプレイには以
下の機能があります。

- 時計

各部の取り扱いと操作

- 燃料計
- 水温計
- トリップメーター表示
- 情報ディスプレイ

時計



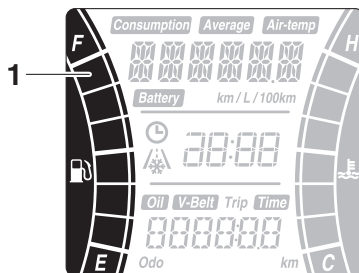
1. 時計

この時計は 24 時間表示です。

時刻調整のしかた

1. メインスイッチを OFF にします。
2. “TRIP” スイッチを押しながらメインスイッチを ON にし、そのまま 8 秒押し続けます。＜時＞の表示が点滅したら “TRIP” スイッチをはなします。
3. “TRIP” スイッチを使用して＜時＞を設定します。
4. “TRIP” スイッチを 3 秒押しではなすと、＜分＞の表示が点滅します。
5. “TRIP” スイッチを使用して＜分＞を設定します。
6. “TRIP” スイッチを 3 秒押しではなすと、通常の時計表示になります。

燃料計



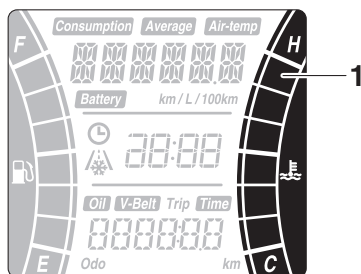
1. 燃料計

フューエルタンクのガソリンの残量を表示します。ガソリンの残量が減ると、燃料計のセグメントが“F”（満）から“E”（空）方向に消えていきます。最後のセグメントが点滅を始めたなら、早めに補給してください。

要 点

- 燃料計の電気回路に異常が検出された場合、燃料計のすべてのセグメントが点滅を始めます。この場合は、ヤマハ販売店に車の点検を依頼してください。
- フューエルタンクのガソリンの残量が約 2.4 L になると、最後のセグメントが点滅し、トリップメーターの表示が自動的にフューエルトリップメーター “F Trip” に切り替わって、その時点からの走行距離を表示します。

水温計



1. 水温計

冷却水の温度を表示します。一番上のセグメントが点滅した場合、エンジンを止めて冷やしてください。

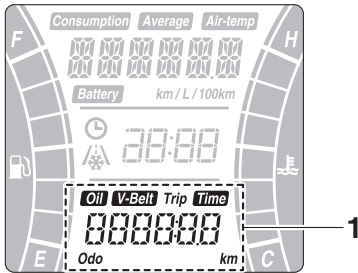
注意

エンジンがオーバーヒートしたときは、走行しないでください。

要 点

- 水温計の電気回路に異常が検出された場合、水温計のすべてのセグメントが点滅を始めます。この場合は、ヤマハ販売店に車の点検を依頼してください。
- 冷却水の温度は、気象条件およびエンジン負荷により変化します。

トリップメーター表示



1. トリップメーター表示

トリップメーター表示には以下の機能があります。

- オドメーター
- トリップメーター
- タイムトリップメーター
- フューエルトリップメーター
- エンジンオイルトリップメーター
- Vベルトトリップメーター

“TRIP” スイッチを押すごとに、オドメーター“Odo”、トリップメーター“Trip”、タイムトリップメーター“Trip Time”、エンジンオイルトリップメーター“Oil Trip”とVベルトトリップメーター“V-Belt Trip”が下記の順で切り替わります。

Odo → Trip → Trip Time → Oil Trip → V-Belt Trip → Odo

要 点

フューエルタンクのガソリンの残量が約 2.4 L になり、最後のセグメントが点滅を始めると、表示は自動的にフューエルトリップメーター“F Trip”に切り替わり、その時点からの走行距離を表示します。

オドメーター“Odo” とトリップメーター“Trip”

オドメーターは、走行した総距離を表示します。

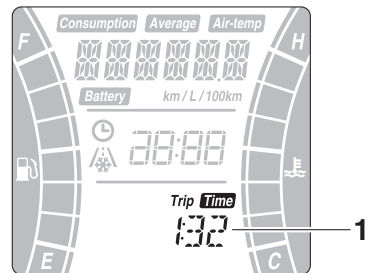
トリップメーターは、リセットしてからの走行距離を積算します。

トリップメーターのリセットは、“TRIP”スイッチを押してトリップメーターを表示させてから“TRIP”スイッチを3秒押します。

要 点

- オドメーターは、最大値（999999 km）を超えると最大値で固定されます。
- トリップメーターは、最大値（9999.9 km）を超えるとリセットされます。

タイムトリップメーター“Trip Time”



1. タイムトリップメーター

前回リセットしてからのメインスイッチがON 状態の時間を表示します。表示できる最長時間は、99:59 です。

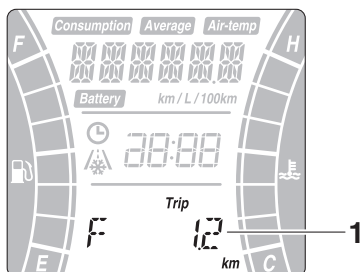
要 点

- タイムトリップメーターのリセットは、“TRIP”スイッチを押してタイムトリップメーターを表示させてから“TRIP”スイッチを3秒押します。

各部の取り扱いと操作

- タイムトリップメーターは、99:59を超えると自動的にリセットされます。

フューエルトリップメーター “F Trip”



1. フューエルトリップメーター

フューエルタンクのガソリンの残量が約 2.4 L になり、最後のセグメントが点滅を始めると、表示は自動的にフューエルトリップメーター “F Trip” に切り替わり、その時点からの走行距離を表示します。このとき “TRIP” スイッチを押すと、下記の順で表示が切り替わります。

F Trip → Oil Trip → V-Belt Trip → Odo → Trip → Trip Time → F Trip

フューエルトリップメーターのリセットは、“TRIP” スイッチを押してフューエルトリップメーターを表示させてから “TRIP” スイッチを 3 秒押します。

フューエルトリップメーターは、ガソリンを給油後約 5 km 走行すると自動的に通常のトリップメーター表示になります。

エンジンオイルトリップメーター “Oil Trip”



1. エンジンオイル交換表示 “Oil”
2. エンジンオイルトリップメーター

最後にリセットされた時点からの距離（最後にオイル交換をしてからの距離）を表示します。

初回は 1000 km 走行時、以降はリセット後 6000 km 走行するとエンジンオイル交換表示 “Oil” が点滅します。エンジンオイル交換表示が点滅したら、早めにヤマハ販売店でエンジンオイルを交換してください。

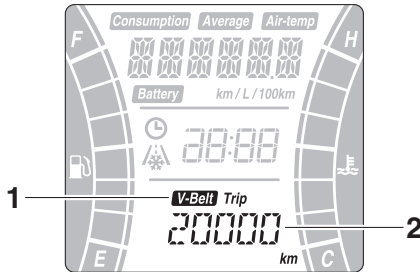
オイル交換後はエンジンオイルトリップメーターとエンジンオイル交換表示をリセットしてください。リセットは、エンジンオイルトリップメーターを表示させてから “TRIP” スイッチを 3 秒押してエンジンオイルトリップメーターを点滅させ、さらに “TRIP” スイッチを 15 ～ 20 秒押します。“TRIP” スイッチをはなすとエンジンオイルトリップメーターとエンジンオイル交換表示がリセットされます。

要 点

エンジンオイル交換表示が点滅する前（定期交換時期の前）にオイル交換したときも、リセットしてください。リセットせずにそのまま走行すると、交換時期がずれてしまいます。

各部の取り扱いと操作

V ベルトトリップメーター “V-Belt Trip”



1. V ベルト交換表示 “V-Belt”
2. V ベルトトリップメーター

最後にリセットされた時点からの距離（最後に V ベルトを交換してからの距離）を表示します。

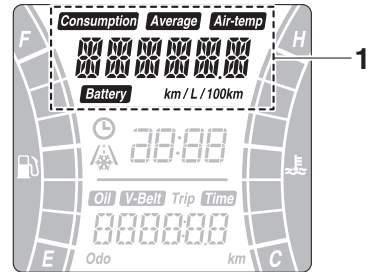
走行距離が 20000 km になると V ベルト交換表示 “V-Belt” が点滅します。V ベルト交換表示が点滅したら、早めにヤマハ販売店で V ベルトを交換してください。

V ベルト交換後は、V ベルトトリップメーターと V ベルト交換表示をリセットしてください。リセットは V ベルトトリップメーターを表示させてから “TRIP” スイッチを 3 秒押し、さらに “TRIP” スイッチを 15 ～ 20 秒押しします。“TRIP” スイッチをはなすと V ベルトトリップメーターと V ベルト交換表示がリセットされます。

要 点

V ベルト交換表示が表示される前（定期交換時期の前）に V ベルトを交換したときも、リセットしてください。リセットせずにそのまま走行すると、交換時期がずれてしまいます。

情報ディスプレイ



1. 情報ディスプレイ

情報ディスプレイには以下の機能があります。

- 気温表示
- バッテリー電圧表示
- トラクションコントロールシステム表示
- 平均燃費表示
- 瞬間燃費表示
- 平均車速表示
- 警告メッセージ機能

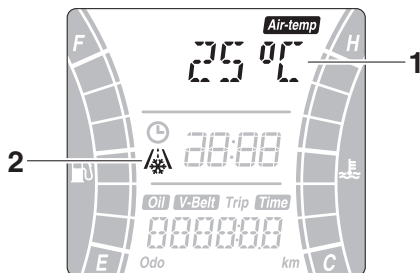
情報ディスプレイの操作方法

“INFO” スイッチを押すごとに、気温表示 “Air-temp”、バッテリー電圧表示 “Battery”、トラクションコントロールシステム表示 “TCS ON” または “TCSOFF”、平均燃費表示 “Consumption/Average_ _ _ km/L” または “Consumption/Average_ _ _ L/100km”、瞬間燃費表示 “Consumption_ _ _ km/L” または “Consumption_ _ _ L/100 km” と平均車速表示 “Average” が下記の順で切り替わります。

Air-temp → Battery → TCS ON または TCSOFF → Consumption/Average_ _ _ km/L → Consumption/Average_ _ _ L/100 km → Consumption_ _ _ km/L → Consumption_ _ _ L/100 km → Average → Air-temp

各部の取り扱いと操作

気温表示



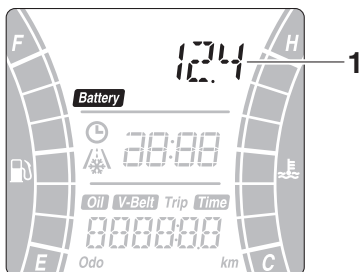
1. 気温表示
2. 路面凍結警告表示 “”

-10 °C ~ 50 °C の外気温が 1 °C 刻みで表示されます。外気温が 4 °C 未満になると路面凍結警告表示 “” が点滅します。表示される温度は、外気温と一致していない場合があります。

要 点

気温表示の値は、低速走行時（約 20 km/h 以下）または信号や踏切での停車中は正しく表示されない場合があります。

バッテリー電圧表示



1. バッテリー電圧表示

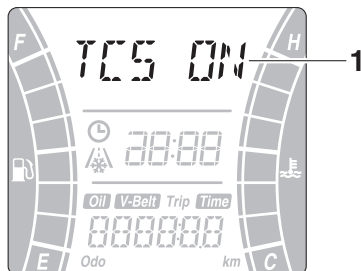
バッテリーの電圧を表示します。

要 点

- スタータースイッチを押したときにエンジンのかかりが遅い場合は、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

- バッテリー電圧表示に “---” が表示された場合は、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

トラクションコントロールシステム表示



1. トラクションコントロールシステム表示

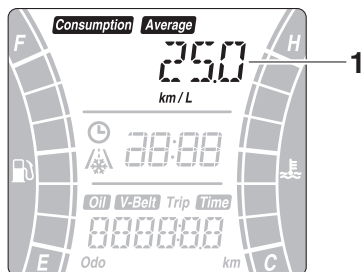
トラクションコントロールシステムの ON・OFF 状態を表示します。（4-15 ページを参照）

- “TCS ON”：システムが ON の状態です。
- “TCSOFF”：システムが OFF の状態です。

要 点

“TCS” のみ表示される場合は、システムに異常があります。ヤマハ販売店に点検・整備を依頼してください。

平均燃費表示



1. 平均燃費表示

最後にリセットした時点からの平均燃費を表示します。“Consumption/Average_ _ km/L” または “Consumption/Average_ _ L/100 km” に切り替えることができます。

各部の取り扱いと操作

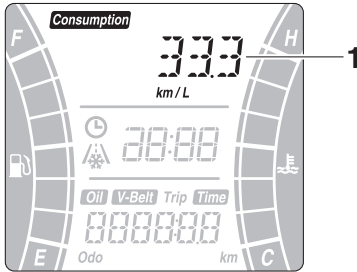
- “Consumption/Average_ __ km/L” : 1.0 L の燃料で走行した平均距離が表示されます。
- “Consumption/Average_ __ L/100 km” : 100 km 走行するために使用した燃料の平均量が表示されます。

平均燃費表示のリセットは、“INFO” スイッチを 3 秒押します。

要 点

平均燃費表示のリセット後は、車両が 1 km 走行するまで “_ _ _” と表示されます。

瞬間燃費表示



1. 瞬間燃費表示

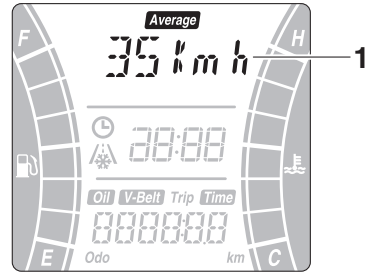
現在の走行状態における瞬間燃費が表示されます。“Consumption_ __ km/L” または “Consumption_ __ L/100 km” に切り替えることができます。

- “Consumption_ __ km/L” : 現在の走行条件で燃料 1.0 L を使って走行可能な距離が表示されます。
- “Consumption_ __ L/100 km” : 現在の走行条件で 100 km 走行するために必要な燃料の量が表示されます。

要 点

10 km/h 未満の速度で走行している場合は、“_ _ _” と表示されます。

平均車速表示



1. 平均車速表示

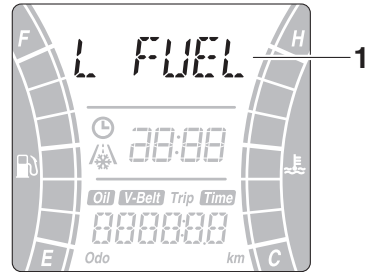
平均車速 “Average_ __ km/h” が表示されます。平均車速は、最後にリセットしてからの総走行距離と総時間（メインスイッチが ON の状態）から算出しています。

この表示は、前回のリセット以降の平均車速を示しています。

平均車速表示のリセットは、“INFO” スイッチで平均車速表示を表示させてから、“INFO” スイッチを 3 秒押します。

警告メッセージ機能

この機能は、現在の警告に対する警告メッセージを表示します。



1. 警告メッセージ

“L FUEL” : 燃料計の最後のセグメントが点滅を始めたときに表示されます。“L FUEL” が表示された場合は、早めに補給してください。

“H TEMP” : 水温計の一番上のセグメントが点滅を始めたときに表示されます。“H TEMP” が表示された場合は、車両を止めてからエンジンを停止し、エンジンを冷ましてください。

各部の取り扱いと操作

JAU12333

“ICE”：路面凍結警告表示 “” が点滅を始めたときに表示されます。もし “ICE” が表示された場合は、路面の凍結に注意してください。

“OIL SERV”：エンジンオイル交換表示 “Oil” が点滅を始めたときに表示されます。“OIL SERV” が表示された場合は、エンジンオイルを交換し、エンジンオイル交換表示とエンジンオイルトリップメーターをリセットしてください。

4

“V-BELT SERV”：V ベルト交換表示 “V-Belt” が点滅を始めたときに表示されます。“V-BELT SERV” が表示された場合は、V ベルトを交換し、V ベルト交換表示とV ベルトトリップメーターをリセットしてください。

2 つ以上の警告がある場合、警告メッセージは下記の順で切り替わります。

L FUEL → H TEMP → ICE → OIL SERV →
VBELT SERV → L FUEL

盗難警報器（別売アクセサリ）

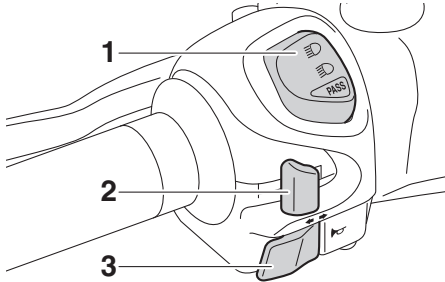
この車には、別売アクセサリの盗難警報器を装着することができます。装着については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の取り扱いと操作

ハンドルスイッチ

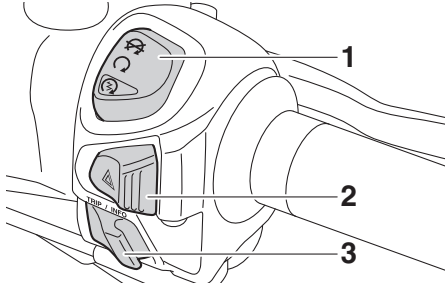
JAU1234M

<左>



1. ヘッドライト上下切り替え / パッシングライトスイッチ “ $\equiv$ 〇/ $\equiv$ 〇/PASS”
2. 方向指示器スイッチ “ $\triangleleft$ / $\triangleright$ ”
3. ホーンスイッチ “ HORN ”

<右>



1. スターター／エンジnstopスイッチ “ HORN ”
2. ハザードスイッチ “ $\triangle$ ”
3. “TRIP/INFO” スイッチ

ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチ “ $\equiv$ 〇/ $\equiv$ 〇/PASS”

JAU54201

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えたり、パッシング（スイッチを押している間、ヘッドライトの上向きも点灯）させるスイッチです。

$\equiv$ 〇（上向き）：遠くを照らします。

$\equiv$ 〇（下向き）：近くを照らします。

要 点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

ヘッドライトの配光が下向きのときに“PASS”側を押すと、ヘッドライトの上向きも点灯します。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

JAU12461

方向指示器スイッチ “ $\triangleleft$ / $\triangleright$ ”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

$\triangleright$ ：右側の方向指示灯が点滅します。

$\triangleleft$ ：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

警告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11983

注 意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU12501

ホーンスイッチ “ HORN ”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときにのみ使用してください。

JAU54212

スターター／エンジnstopスイッチ “ HORN ”

スターターでエンジンを始動するには、このスイッチを“ HORN ”に合わせしてから、スイッチの“ HORN ”側を押してください。

JCA11882

注 意

- スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりとなります。

- エンジンを始動させる前に、6-1 ページの始動手順を参照してください。

非常時に、エンジンをすぐに停止させるには“ HORN ”にします。通常は“ HORN ”にしておきます。

各部の取り扱いと操作

JWA17700

⚠ 警告

非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA20770

注意

- 非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチを OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。
- 走行中に、スターター／エンジンストップスイッチを “○” → “⊗” → “○” にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。

要 点

“⊗” にすると、エンジンは始動できません。

JAU33811

ハザードスイッチ “△”

メインスイッチを ON にした状態でスイッチを押し、ハザードランプを点灯させます（全ての方向指示器が点滅します）。

ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

JCA11891

注意

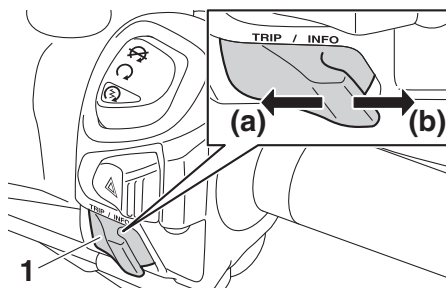
バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU78491

“TRIP/INFO” スイッチ

このスイッチは、マルチファンクションメーターの設定と表示の変更を行うときに使用します。（4-3 ページを参照）

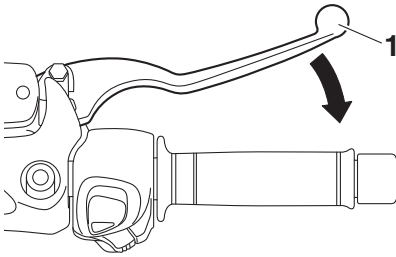
“TRIP” スイッチを使用するには、“TRIP/INFO” スイッチを (a) 方向に動かします。“INFO” スイッチを使用するには、“TRIP/INFO” スイッチを (b) 方向に動かします。



1. “TRIP/INFO” スイッチ

JAU12902

フロントブレーキレバー

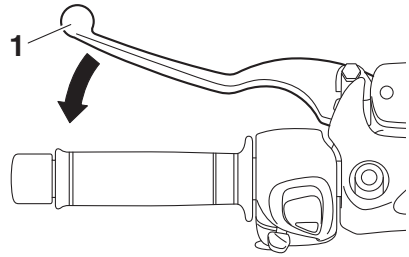


1. フロントブレーキレバー

フロントブレーキレバーは、ハンドルの右側に取り付けられています。フロントブレーキをかけるには、このレバーをスロットルグリップに向けて握ります。

JAU12952

リヤブレーキレバー



1. リヤブレーキレバー

リヤブレーキレバーは、ハンドルの左側に取り付けられています。リヤブレーキをかけるには、このレバーをハンドルのグリップに向けて握ります。

各部の取り扱いと操作

ABS

JAU78200

この車の ABS (アンチロックブレーキシステム) は、フロントブレーキとリアブレーキに独立して働くデュアルエレクトロニックコントロールシステムを特徴としています。ABS は ECU (エレクトロニックコントロールユニット) によってモニターされており、ECU が故障を検知した場合には通常のブレーキの状態になります。

JWA15363

警告

- ABS は制動距離を短くする装置ではありません。
- 未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を充分にとってください。

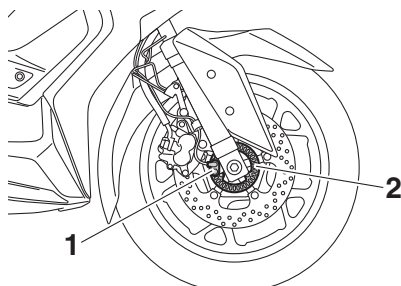
要 点

- ABS が作動していても、ブレーキは通常の方法で使用できます。ブレーキレバーに振動が感じられるかもしれませんが、故障ではありません。
- 車両の電源を ON にして 10 km/h 以上の速度で走行するまで ABS は自己診断を行っています。この間、車の前方から“カチカチ”音がすることがありますが、故障ではありません。
- このABSには、ABSが作動している状態(ブレーキレバーに振動を感じる)を体感できるテストモードがあります。ただし、特殊工具が必要となりますので、ヤマハ販売店にご相談ください。

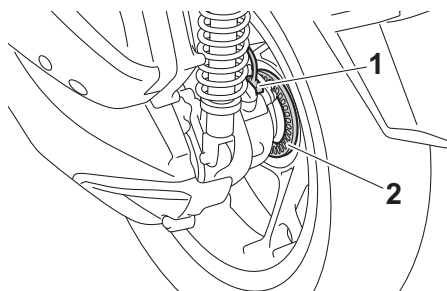
JCA20100

注 意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサー
2. フロントホイールセンサーローター



1. リアホイールセンサー
2. リアホイールセンサーローター

各部の取り扱いと操作

トラクションコントロールシステム

JAU78611

トラクションコントロールシステム (TCS) は、未舗装または濡れた道路のような滑りやすい路面で加速するとき、加速時の駆動力を効率良く路面に伝達する働きをします。センサーが後輪のスリップを検知すると、トラクションコントロールシステムにより、スリップ状態が回復するまでエンジン出力を制御します。

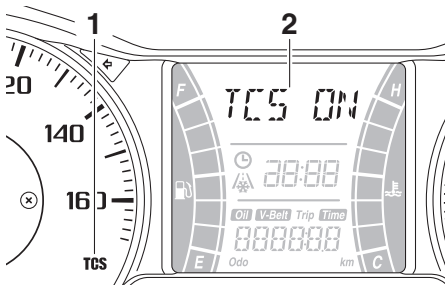
トラクションコントロールが有効になると、“TCS”表示灯が点滅します。

JWA15433

警告

トラクションコントロールシステムは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。またトラクションコントロールシステムは、スピードが出過ぎたまま曲がり角に進入するときや、車体を大きく傾斜させた状態での急な加速、ブレーキ中に起こるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことができません。他の車と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。

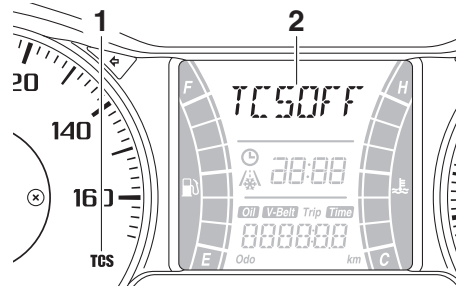
トラクションコントロールシステムの設定



1. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”
2. トラクションコントロールシステム表示

車両の電源が ON になると、トラクションコントロールも自動的に ON になります。トラクションコントロールシステムを OFF にするには、“INFO”スイッチを使用して、情報ディスプレイをトラクションコントロール

システム表示に変更します。“INFO”スイッチを 3 秒押すと “TCSSOFF” が表示され、“TCS”表示灯が点灯します。



1. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”
2. トラクションコントロールシステム表示

要点

車両が泥や砂などの軟らかい地面にはまったとき、トラクションコントロールシステムを OFF にすると、抜け出しやすくなる場合があります。

JCA16801

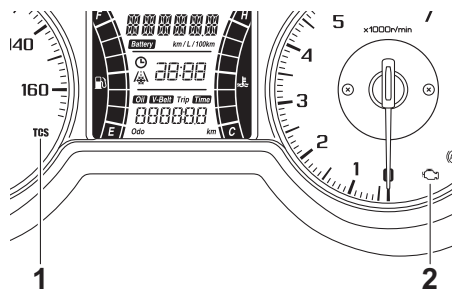
注意

必ず指定タイヤを使用してください。(7-11 ページ参照) 指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムはタイヤの回転を正確に制御することができません。

トラクションコントロールシステムのリセット

トラクションコントロールシステムは、センサーの故障が検知されたとき、片方の車輪のみが回転したときなどに、自動的に OFF になります。この場合、“TCS”表示灯が点灯するほか、“i”警告灯も点灯することがあります。

各部の取り扱いと操作



1. トラクションコントロールシステム表示灯“TCS”
2. エンジン警告灯“ ”

4

要 点

メインスタンドがかかっている場合は、過剰にエンジンを回転させないでください。トラクションコントロールシステムが自動的に OFF になり、リセット操作が必要になります。

トラクションコントロールシステムが自動的に OFF になった場合は、次のようにリセット操作をしてください。

1. 車両を停車させ、電源を OFF にします。
2. 数秒後、車両の電源を ON にします。
3. “TCS” 表示灯が消灯し、システムが ON になります。

要 点

リセット操作後も“TCS”表示灯が点灯したままの場合は、乗車は可能ですが、速やかにヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

4. ヤマハ販売店で車両の点検を受け、“ ”警告灯を消灯してもらいます。

フューエルタンクキャップ

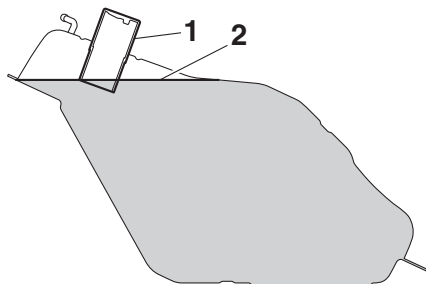
JAU78502

JWA12172

⚠ 警 告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。



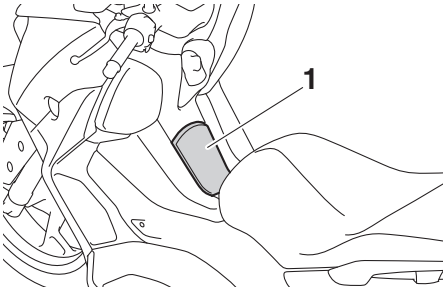
1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの取り外しかた

1. メインスイッチを“ ”にしてフューエルタンクキャップリッドを開けます。

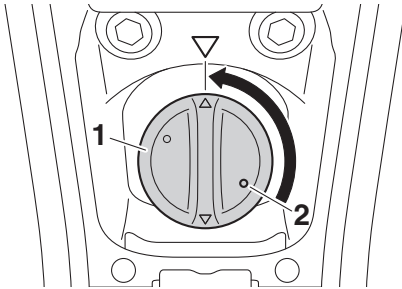
各部の取り扱いと操作

2. フューエルタンクキャップリッドを閉めます。



1. フューエルタンクキャップリッド

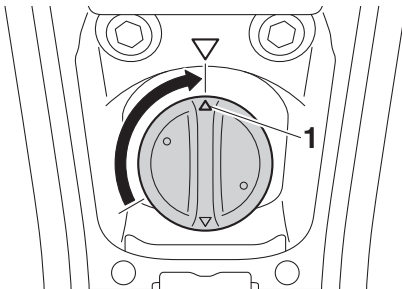
2. “○”マークが車体側の“▽”マークに合うまで燃料タンクキャップを反時計回りに回し、キャップを取り外します。



1. フューエルタンクキャップ
2. “○”マーク

フューエルタンクキャップの取り付けかた

1. フューエルタンクキャップを給油口に挿入し、キャップ側の“△”マークと車体側の“▽”マークが合う位置まで時計方向に回して取り付けます。



1. “△”マーク

各部の取り扱いと操作

燃料

JAU31461

JAU83270

指定燃料

JAU28313

指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
約 13 L

JCA12512

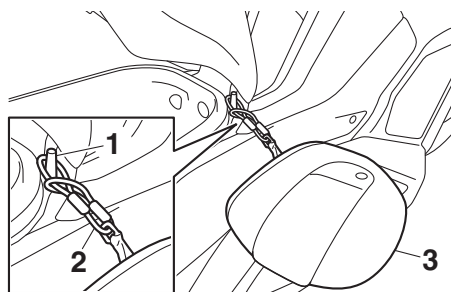
注意

4

- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

ヘルメットホルダー

トランクにヘルメットが入らない場合は、ヘルメットホルダーを使用してください。



1. ヘルメットホルダー
2. ヘルメットホールディングケーブル
3. ヘルメット

シート裏側に収納されているヘルメットホールディングケーブルを使用し、図のようにヘルメットをヘルメットホルダーに掛けて、シートを閉めてください。

要点

シートがロックされていることを確認してください。

JWA11651

警告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

書類入れ

メンテナンスノート、自賠責保険証はビニール袋に入れて、トランク内に保管してください。

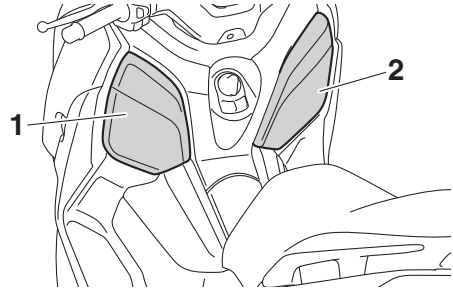
小物入れとトランク

⚠ 警告

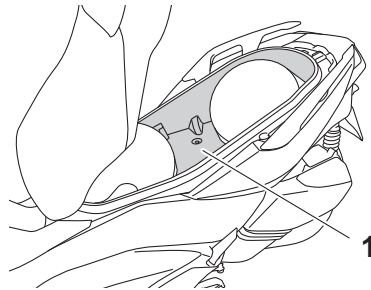
以下の荷重制限を越えないでください。

- 小物入れ A: 1.0 kg
- 小物入れ B: 0.5 kg
- トランク : 5.0 kg

小物入れ 2 つとトランクがあります。



1. 小物入れ A
2. 小物入れ B



1. トランク

要 点

- 小物入れ A はスマートキーを使用して開けてください。(3-8 ページを参照)
- シート／トランクは、スマートキーシステムまたはメカニカルキーで開けることができます。
- ヘルメットのサイズや形状によっては、収納できないものもあります。

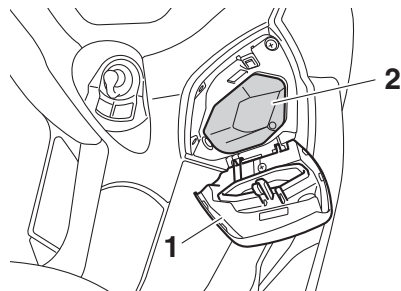
各部の取り扱いと操作

小物入れ A

小物入れ A を開けるときは、メインスイッチを OPEN にしてから“LID” ボタンを押します。閉めるときはリッドを押して元の位置に戻します。

小物入れ B

小物入れ B を開けるときは、リッドを内側に押してロックを解除してから開けます。



1. リッド
2. 小物入れ B

閉めるときはリッドを押して元の位置に戻します。

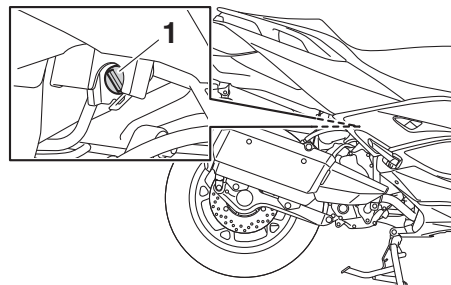
シート／トランクの開けかた

メインスイッチを使用する場合

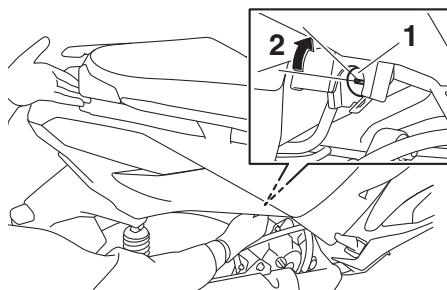
メインスイッチを OPEN にし、“SEAT” ボタンを押します。

メカニカルキーを使用する場合

1. シートロックカバーを開けます。



1. シートロックカバー
2. キーをシートロックに差し込み、時計方向に回します。



1. シートロック
2. 解除

JCA24020

注意

メカニカルキーを使用しないときはシートロックカバーを閉めてください。

JCA15964

注意

- シートは長時間開けたままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。
- 洗車をするときに水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。
- 濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、トランク内にカビなどが発生することがあります。
- 貴重品やこわれやすい物はいれしないでください。
- トランク内は直射日光、エンジンの熱などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい用品、食料品または可燃性のものは入れないでください。

要 点

- 走行前に、必ず小物入れが確実にロックされていることを確認してください。
- シートを降ろしたら、シートがロックされているか確認してください。
- 車から離れるときは、必ずシートをロックしてください。

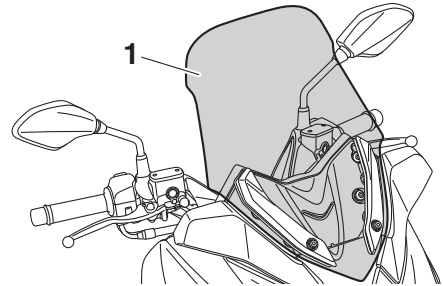
各部の取り扱いと操作

JAU78521

- キーを小物入れに入れたままリッドを開めたり、トランクに入れたままシートを閉じると、ロックされ開けられなくなります。注意してください。

ウインドシールド

この車のウインドシールドは、運転される方に合わせて2つの位置に調整できます。

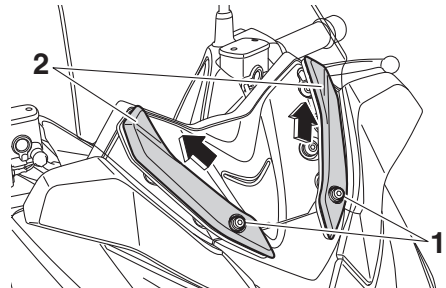


1. ウインドシールド

4

ウインドシールドの高さを高くするには

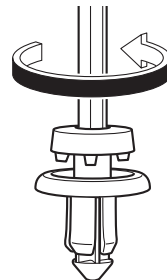
1. クイックファスナーを外してボルトアクセスカバーを取り外します。



1. クイックファスナー
2. ボルトアクセスカバー

要 点

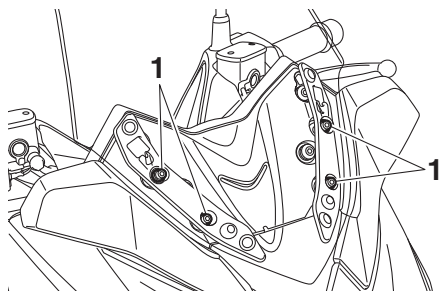
クイックファスナーは、六角レンチでねじ部を反時計回りに回し、取り外します。



各部の取り扱いと操作

JWA20600

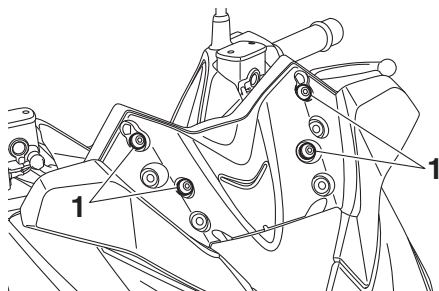
2. ボルトを外してウインドシールドを取り外します。



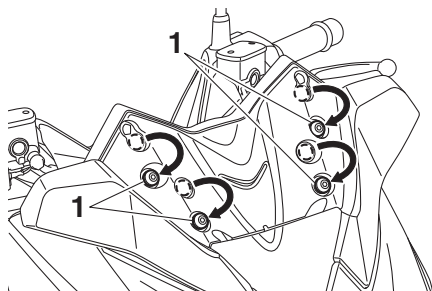
1. ボルト

4

3. ボルトを外し、下側の孔にボルトを取り付けます。



1. ボルト

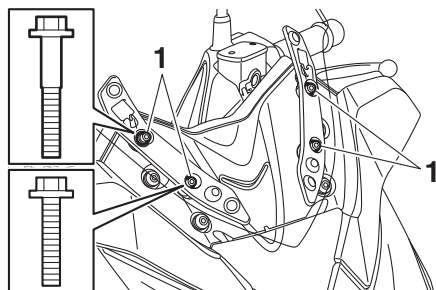


1. ボルト

4. ウインドシールドを高い位置に取り付け、規定のトルクでボルトを締め付けます。

警告

ウインドシールドのゆるみは事故の原因となるおそれがあります。規定のトルクでボルトを締め付けてください。

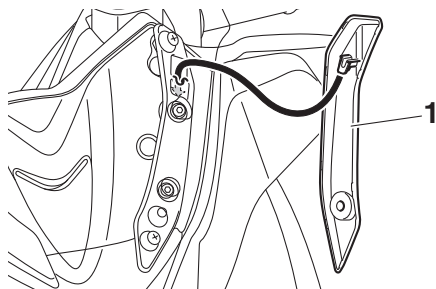


1. ボルト

締め付けトルク：

ウインドシールドボルト：
8 N・m (0.8 kgf・m)

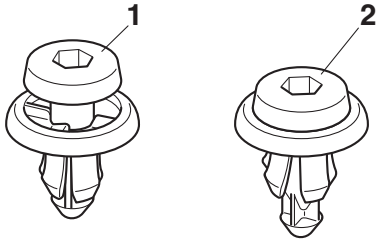
5. ボルトアクセスカバーを元の位置に戻し、クイックファスナーを取り付けます。



1. ボルトアクセスカバー

要点

クイックファスナーは、ねじ部をクイックファスナーの面から押し出した状態で取り付け、その後クイックファスナーの面と同じ位置まで上から押し込みます。



1. クイックファスナー（取り付け前）
2. クイックファスナー（取り付け状態）

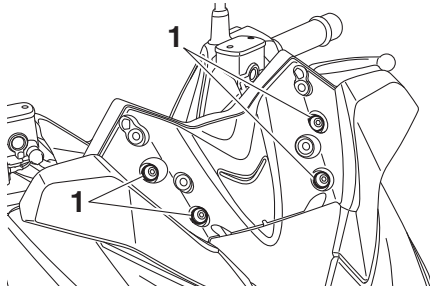
ウインドシールドの高さを低くするには

1. クイックファスナーを外してボルトアクセスカバーを取り外します。

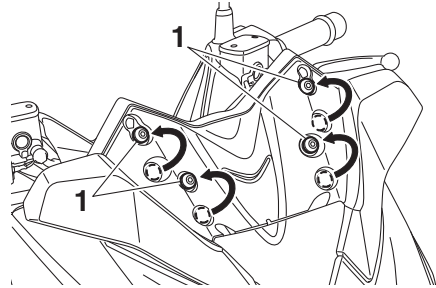
要 点

クイックファスナーは、六角レンチでねじ部を反時計回りに回し、取り外します。

2. ボルトを外してウインドシールドを取り外します。
3. ボルトを外し、上側の孔にボルトを取り付けます。



1. ボルト



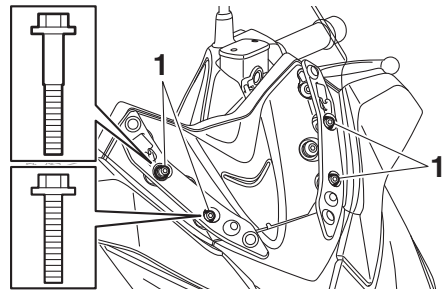
1. ボルト

4. ウインドシールドを低い位置に取り付け、規定のトルクでボルトを締め付けます。

JWA20600

警告

ウインドシールドのゆるみは事故の原因となるおそれがあります。規定のトルクでボルトを締め付けてください。



1. ボルト

締め付けトルク：

ウインドシールドボルト：
8 N・m (0.8 kgf・m)

5. ボルトアクセスカバーを元の位置に戻し、クイックファスナーを取り付けます。

要 点

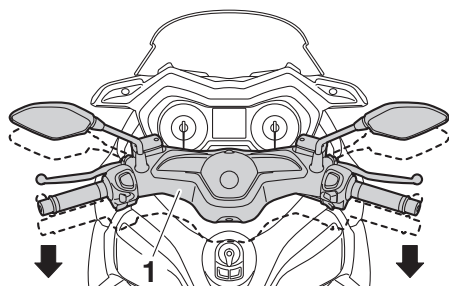
クイックファスナーは、ねじ部をクイックファスナーの面から押し出した状態で取り付け、その後クイックファスナーの面と同じ位置まで上から押し込みます。

各部の取り扱いと操作

JAU46833

ハンドル位置の調整

ハンドルは、運転者の好みに合わせて2つの位置のうちいずれかに調整することができます。ハンドル位置の調整はヤマハ販売店に依頼してください。



1. ハンドル

4

JAU14894

リヤクッションの調整

JWA11501



アジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

リヤクッションにはスプリングプリロードアジャスターが装備されています。

JCA11911

注意

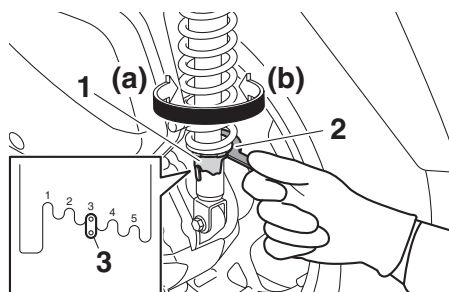
調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロードの調整は以下のように行います。

スプリングプリロードを大きくし、サスペンションを硬くするには、アジャスターを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを小さくし、サスペンションを軟らかくするには、アジャスターを (b) 方向に回します。

要 点

- アジャスターの切り欠きを、リヤクッションのインジケーターに合わせます。
- サービスツール内の調整レンチを使って調整を行います。



1. スプリングプリロードアジャスター
2. 調整レンチ
3. インジケーター

スプリングプリロード：

最大（ハード）：

5

標準：

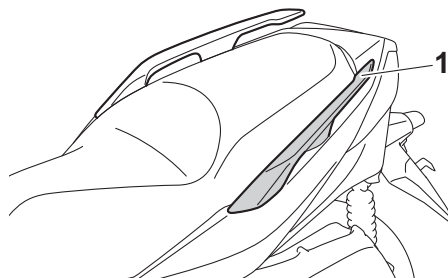
3

最小（ソフト）：

1

スタンディングハンドル

メインスタンドを立てたり戻したりするときに、右手で持ちます。



1. スタンディングハンドル

各部の取り扱いと操作

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要 点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。(サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。)

JWA10242

警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

4

JAU78690

イグニッションサーキットカットオフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム（サイドスタンドスイッチおよびブレーキランプスイッチを含む）には次の機能があります。

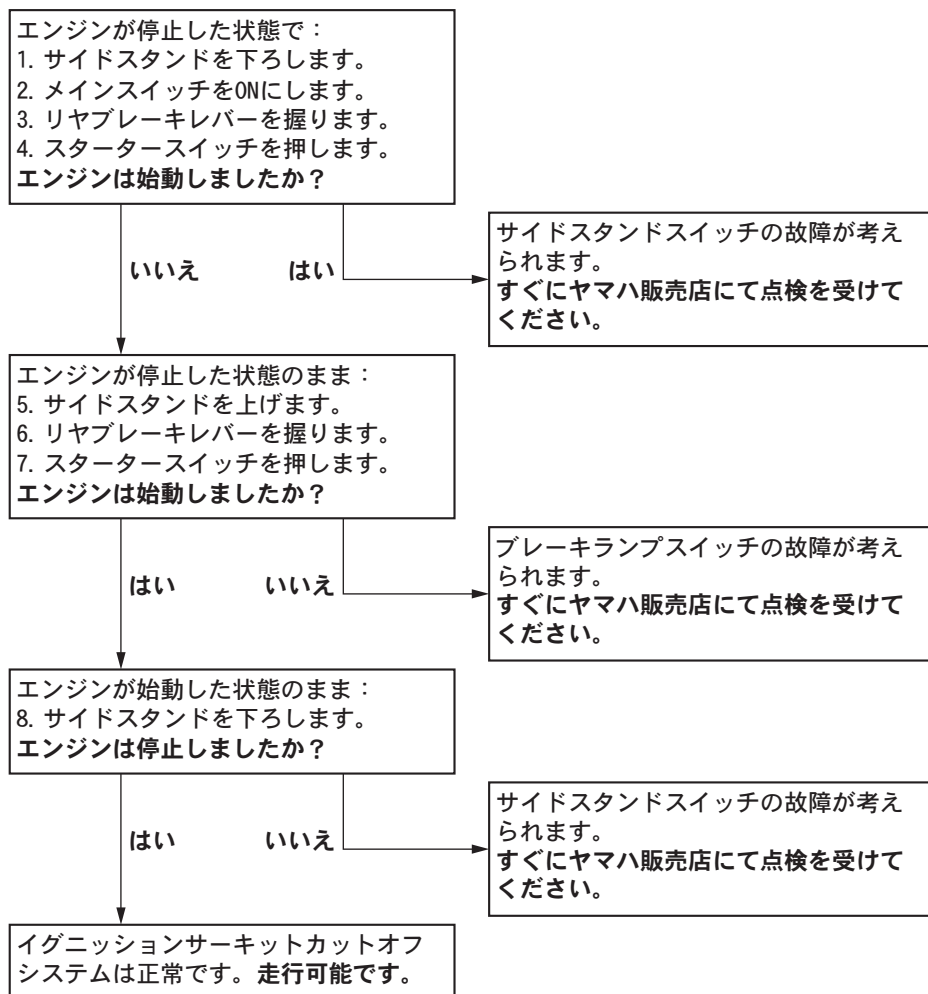
- サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- どちらかのブレーキレバーを握っていないと、エンジンは始動できません。
- サイドスタンドを下げると、エンジンは停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11551

警 告

- 点検中はメインスタンドを立ててください。
- 点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。



各部の取り扱いと操作

DC ジャック

JAU78213

JWA14361

⚠ 警告

感電または短絡を防止するため、DC ジャックを使用しない場合は、必ずキャップを取り付けてください。

JCA15432

注意

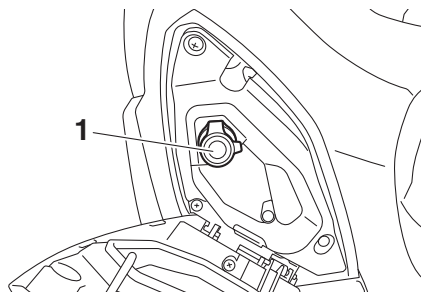
DC ジャックに接続するアクセサリは、エンジンが停止している場合には使用しないでください。また、接続負荷が 12 W (1 A) を決して超えないようにしてください。ヒューズ切れや、バッテリーあがりを起こす可能性があります。

この車には、12 V 用の DC ジャックが搭載されています。DC ジャックは小物入れ A にあります。

DC ジャックはメインスイッチが ON の状態でエンジンを始動しているときに使用してください。

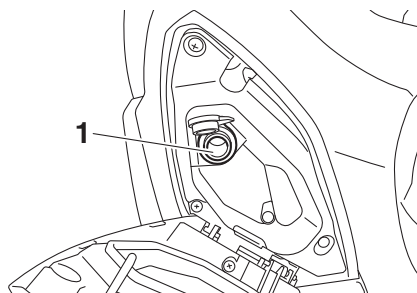
DC ジャックの使いかた

1. 小物入れ A を開けます。(3-8 ページを参照)
2. メインスイッチを OFF にします。
3. DC ジャックキャップを外します。



1. DC ジャックキャップ

4. アクセサリの電源を OFF にします。
5. アクセサリのプラグを DC ジャックに差し込みます。



1. DC ジャック

6. メインスイッチを ON にし、エンジンを始動します。(6-1 ページを参照)
7. アクセサリの電源を ON にします。

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスの有無や内容が異なります。)

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、7-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。(※) ● エンジンオイルの量が適当であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適当であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。

日常点検

- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
 - 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
 - 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。
-

要 点

この車は、転倒時にエンジンを停止させるための傾斜角センサーを装備しています。転倒時にエンジンが停止した場合、エンジン警告灯が点灯しますが、故障ではありません。エンジンを再始動させる前に、メインスイッチをOFFにしてからONにして警告灯を消灯させます。消灯させないと、スタータスイッチを押しても、エンジンを始動させることはできません。

エンジン始動

注 意

初めて車両を運転する前に、6-4 ページのならし運転のしかたを参照してください。

要 点

サイドスタンドを下ろした状態では、エンジンは始動できません。また、エンジン始動後、サイドスタンドを出すとエンジンは停止します。

警告

- エンジンを始動するときには、4-26 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。
- サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。

1. メインスタンドを立てます。
2. メインスイッチをONにし、エンジンストップスイッチが“(○)”にセットされていることを確認します。
3. スロットルを完全に閉じます。
4. リヤブレーキレバーをしっかりと握り、スターター／エンジンストップスイッチの“(⊗)”を押して、エンジンを始動させます。

要 点

スタータスイッチで5秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10秒位休ませてからスタータスイッチを押してください。

注 意

- エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。
- 長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。

運転操作

- 通常のアイドル回転数を必要以上に高くした状態（アイドルアジャスターの誤った調整や、スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

JAU45093

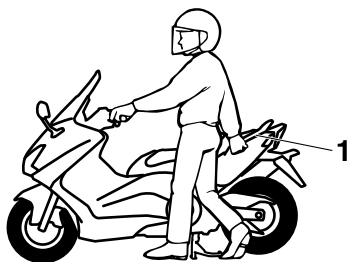
発進

JWA12261

⚠ 警告

飛び出し防止のため、走り出すまではエンジンの回転をむやみに上げないでください。

1. 左手でリヤブレーキレバーを握り、右手でスタンディングハンドルを持ちながら、車を前に押し出してメインスタンドを戻します。



1. スタンディングハンドル

JWA12271

⚠ 警告

メインスタンドを立てたり戻したりするときは、スロットルグリップを握らないでください。スロットルグリップが回り、車が走り出すことがあります。

2. シートにまたがり、バックミラーを調整します。
3. 方向指示器スイッチを右側に入れ、発進の合図をします。
4. 周りの安全を確認し、スロットルグリップをゆっくりと回して発進します。

JWA12281

⚠ 警告

スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

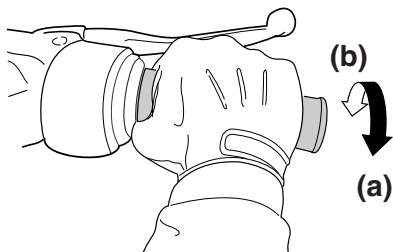
5. 方向指示器を消灯します。

JAU16782

JAU16794

加速と減速

速度の調節は、スロットルを開けたり、閉じたりして行います。速度を上げるには、スロットルグリップを (a) 方向に回します。速度を落とすには、スロットルグリップを (b) 方向に回します。



ZALUM0199

JCA12681

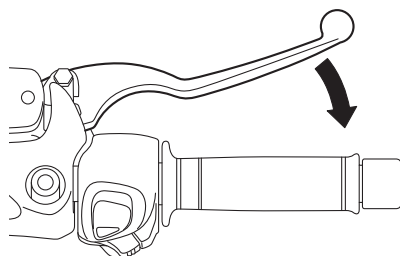
注意

上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となります。

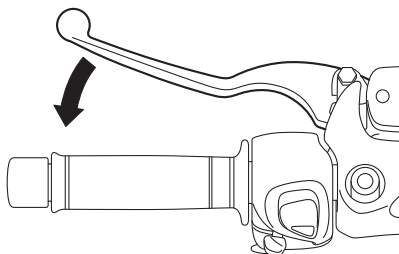
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリアブレーキを同時に、徐々にしぼりこむように握ります。

<フロントブレーキ>



<リアブレーキ>



JWA11573

警告

- 急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。

運転操作

- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。
-

JAU31471

ならし運転

JAU27663

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。

ならし運転中はエンジン回転数を 5000 r/min 以下で走行してください。

また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。

ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

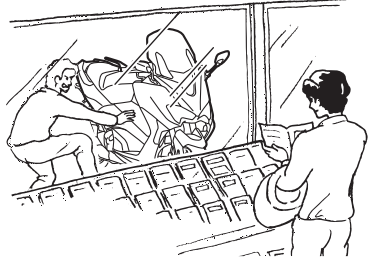
JAUN1421

駐車

バッテリーあがりを防ぐため、駐車するときはメインスイッチを OFF か “” にしてエンジンを止め、運転者はスマートキーを持って車から離れてください。
また盗難予防のため、ハンドルロックをかけることをおすすめします。

要 点

- この車両は、バッテリーあがりや盗難を防ぐため、エンスト放置警告機能を装備しています。サイドスタンドを出してエンジンを停止したあと、メインスイッチを ON にしたまま放置するとアラームが鳴って運転者にお知らせする機能です。
- エンスト放置警告機能は無効にすることができます。ヤマハ販売店にお問い合わせください。



JWA11582

警告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

要 点

お店のガラス越しや家の塀越しなどの隔てた場所に駐車した場合でも、車がスマートキーシステムの作動範囲内にあると、スマートキーを身につけていない他の人でもエンジンの始動や、シートの開閉、ハンドルロックの解除が可能になります。このようなときは、スマートキーをロックの状態にしてください。(スマートキーのロック／アンロック切替操作方法は、3-5 ページを参照してください)

点検整備

点検整備の実施

JAU29839

日常点検

5-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

警告

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。
- 点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
 - 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
 - エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
 - 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。
 - 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。

- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JWA15461

警告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリアバー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が十分に冷えてから行ってください。

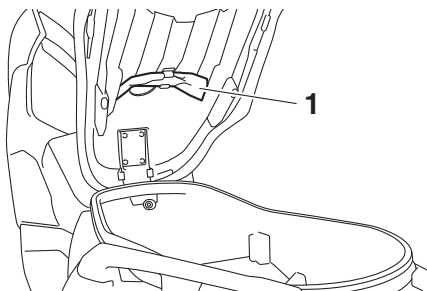
要点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サーピスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

JAU79250

JAU18752

サービスツール

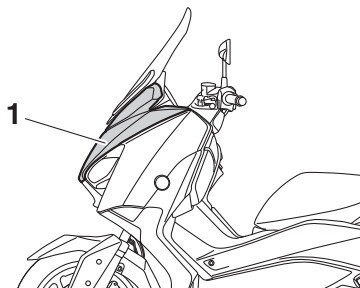


1. サービスツール

サービスツールは、シートの裏側にあります。(3-8 ページ参照)

カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



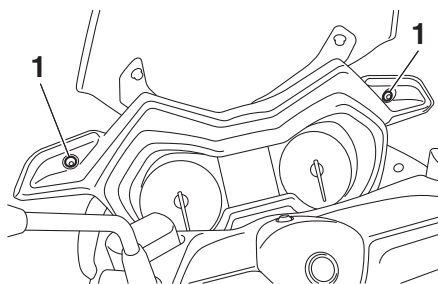
1. カバー A

JAU78530

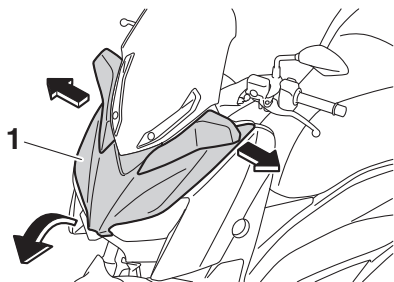
カバー A

カバーの取り外しかた

スクリューを外し、図のようにカバーを外側に引きだしてから前方にスライドさせ、カバーを取り外します。



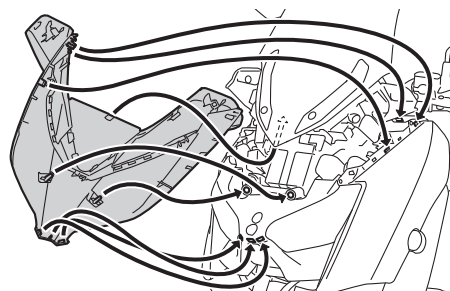
1. スクリュー



1. カバー A

カバーの取り付けかた

カバーを元の位置に取り付け、スクリューを取り付けます。



7

エンジンオイル

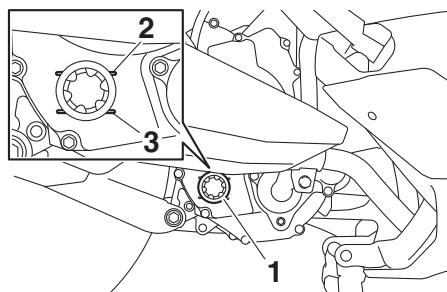
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンが十分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めてメインスタンドを立て（車を垂直にする）、2～3分後、オイル点検窓からエンジンオイル量を点検します。

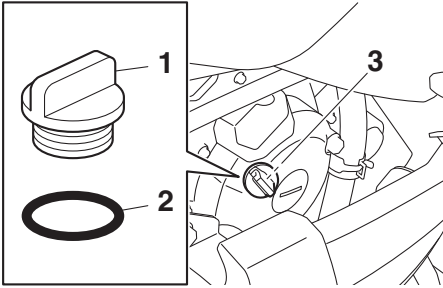


1. エンジンオイル点検窓
2. フルレベル
3. ロアレベル

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。（推奨エンジンオイルについては、8-4 ページ参照）

要 点

Oリングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。



1. オイル注入口キャップ
2. O リング
3. オイル注入口

JAU66260

エンジンオイルの交換時期

- 初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
- 2 回目以降：
6000 km 走行ごと、または 1 年ごと
- エンジンオイル量：
オイル交換時：
1.50 L
オイルフィルター取り外し時：
1.60 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

- 初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
- 2 回目以降：
18000 km 走行ごと

JWA11861

警告

- 走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12261

注意

- 化学添加剤は一切加えないでください。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

要点

- エンジンオイル交換表示 “Oil” は回路の確認のため、走行距離に関係なく車両の電源を ON にすると約 2 秒間表示されます。
- エンジンオイル交換表示 “Oil” が点滅したときは、早めにヤマハ販売店でオイル交換を受け、リセット操作をしてください。リセットせずにそのまま走行しますと、交換時期がずれてしまいます。（4-3 ページ参照）

ファイナルギヤオイルの交換時期

JAU30664

初回：

1 か月点検時または 1000 km 走行時

2 回目以降：

10000 km 走行ごと

定期交換時オイル量：

0.20 L

推奨オイル：

ヤマラーブ ギヤオイル

ファイナルギヤオイルの交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

エンジンのかかり具合、異音の点検

JAU30691

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

エンジンから異音がないかを点検します。

JAU44194

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離れたときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられている場合があります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JWA15531

警告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジnstール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

冷却水

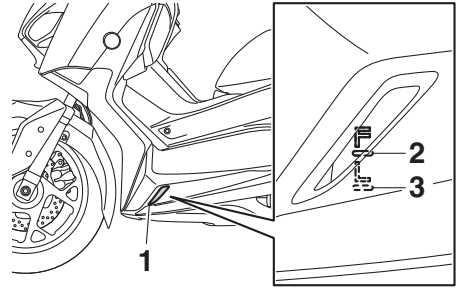
JAU20071

冷却水量の点検

要 点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直に行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



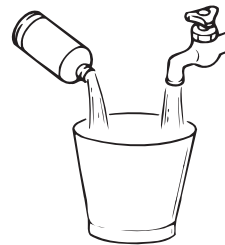
1. 冷却水点検窓
2. フルレベル
3. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30805

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を1対1で混ぜ合わせます。



点検整備

JWA11882

警告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- 目に入ったとき
水で十分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- 皮膚や衣類についたとき
すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- 飲んだとき
すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12112

注意

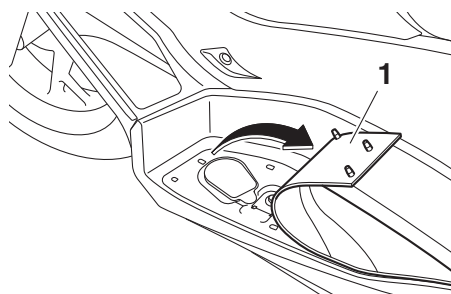
混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU83070

冷却水の補充

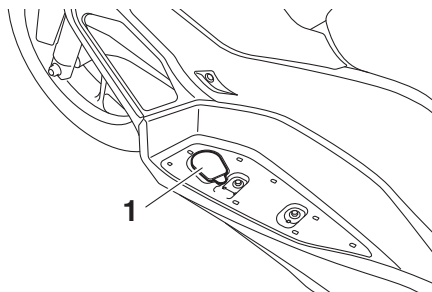
リカバリータンク内の冷却水量を点検し、液面がロアレベルより下にあるときは、冷却水をフルレベルまで補充します。

1. 左のフットボードラバーを引き上げて取り外します。



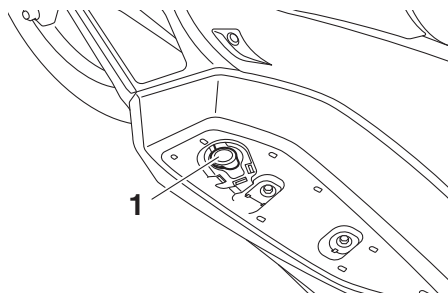
1. フットボードラバー

2. リカバリータンクカバーを取り外します。



1. リカバリータンクカバー

3. リカバリータンクキャップを外し、冷却水をフルレベルまで補充します。



1. リカバリータンクキャップ

4. リカバリータンクキャップとリカバリータンクカバーを取り付けます。
5. フットボードラバーを元の位置に戻し、押しつけてしっかりと取り付けます。

要点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で行ってください。

JCA12121

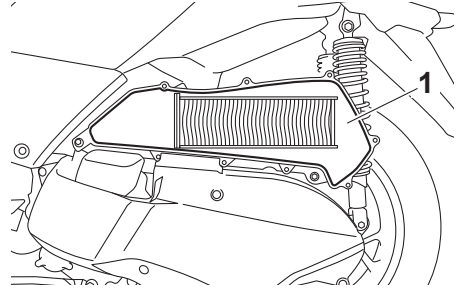
注意

- フルレベル以上は入れないでください。
- 冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

JAU78574

エアクリーナーエレメント、Vベルトフィルターエレメント

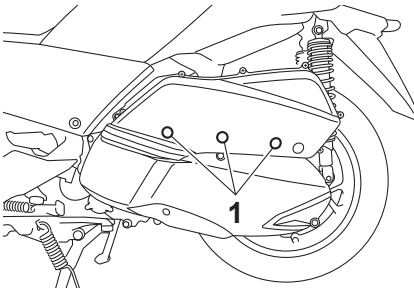
エアクリーナーエレメントとサブエアクリーナーエレメントは 20000 km 走行ごとに交換してください。プレエアクリーナーエレメントは 20000 km 走行ごと、V ベルトフィルターエレメントは 10000 km 走行ごとに点検、清掃してください。ただし、ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、上記よりも短い距離で交換または点検、清掃を行ってください。



1. エアクリーナーエレメント

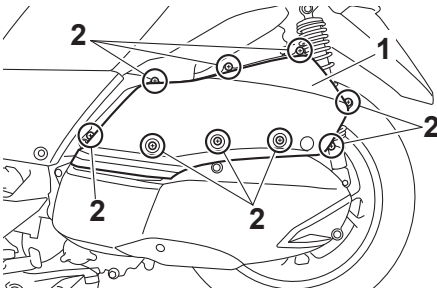
エアクリーナーエレメント／サブエアクリーナーエレメントの交換とプレエアクリーナーエレメントの清掃

1. メインスタンドを立てます。
2. ゴムキャップを取り外します。



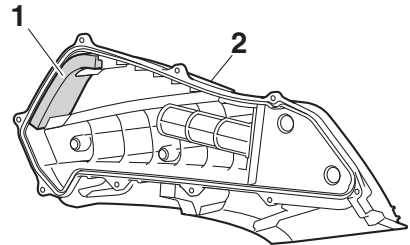
1. ゴムキャップ

3. スクリューを外して、エアクリーナーケースカバーを取り外します。



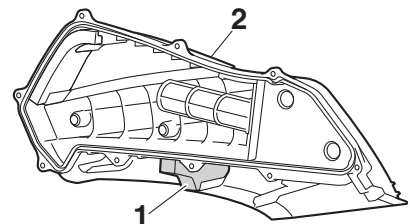
1. エアクリーナーケースカバー
2. スクリュー

4. エアクリーナーエレメントとサブエアクリーナーエレメントを取り外します。

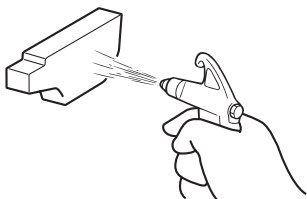


1. サブエアクリーナーエレメント
2. エアクリーナーケースカバー

5. 新しいサブエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースカバーに取り付けます。
6. 新しいエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。
7. プレエアクリーナーエレメントを取り外し、図のようにエアを吹きつけて清掃します。



1. プレエアクリーナーエレメント
2. エアクリーナーケースカバー

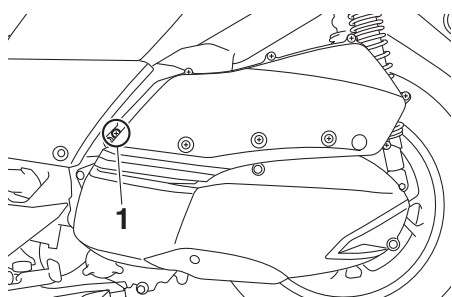


8. プレエアクリーナーエレメントの損傷を点検します。損傷している場合は交換します。
9. プレエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースカバーに取り付けます。
10. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

要 点

1 本の長いスクリューは、図の位置に取り付けてください。

7



1. スクリュー (長)

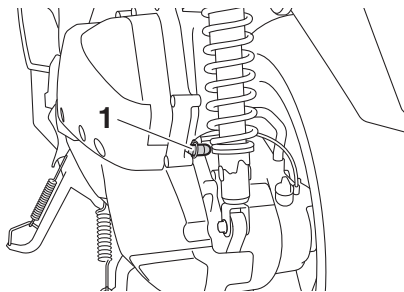
11. ゴムキャップを取り付けます。

JCA11951

注 意

- エアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。
- エアクリーナーエレメントを取り付けないうままエンジンを始動しないでください。エンジンの故障の原因となります。

ブローバイガス還元装置のブリーザーダレンホースの清掃

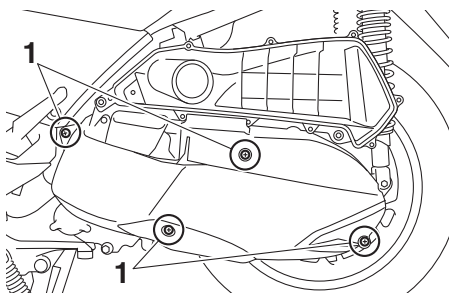


1. ブローバイガス還元装置のブリーザーダレンホース

1. エアクリーナーケース後方のブリーザーダレンホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。
2. 汚れや水があった場合は、ブリーザーダレンホースからクランプを取り外してホースを清掃し、元に戻します。

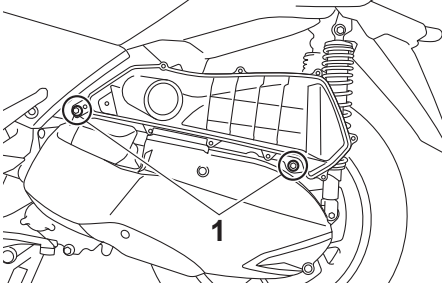
V ベルトフィルターエレメントの清掃

1. メインスタンドを立てます。
2. エアクリーナーケースカバーを取り外します。(エアクリーナーケースカバーの取り外しについては、前の項目を参照してください。)
3. スクリューを外して、V ベルトケースカバーを取り外します。



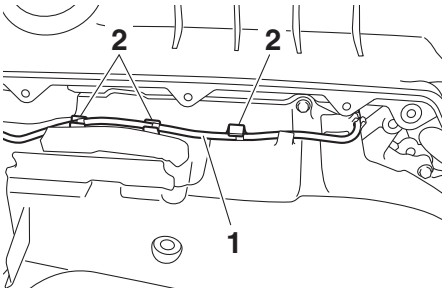
1. スクリュー

4. エアクリーナーケースボルトを取り外します。



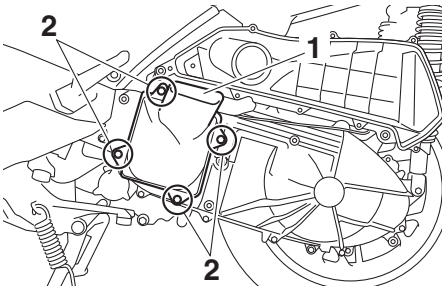
1. ボルト

5. エアクリーナーケースを少し持ち上げて、リヤホイールセンサーリード線をホルダーから外し、Vベルトケースカバーを取り外します。



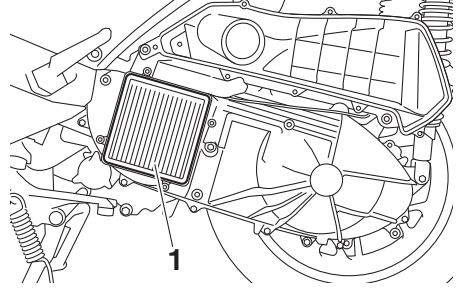
1. リヤホイールセンサーリード線
2. ホルダー

6. ボルトを外して、Vベルトフィルターカバーを取り外します。

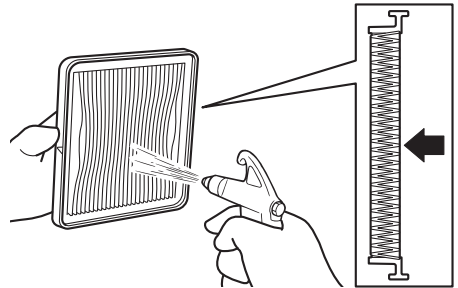


1. Vベルトフィルターカバー
2. ボルト

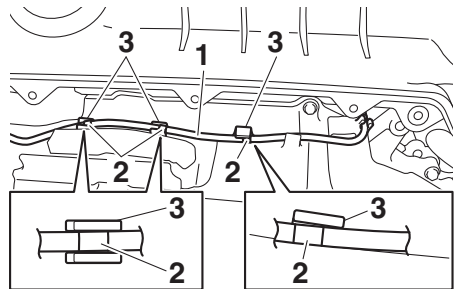
7. Vベルトフィルターエレメントを取り外し、図のようにエアを吹きつけて清掃します。



1. Vベルトフィルターエレメント



8. Vベルトフィルターエレメントの損傷を点検します。損傷している場合は交換します。
9. VベルトフィルターエレメントをVベルトケースに取り付けます。
10. Vベルトフィルターカバーを取り付け、ボルトを締め付けます。
11. 図のように、リヤホイールセンサーリード線上の白テープ箇所がホルダーに入るように取り付けます。



1. リヤホイールセンサーリード線
2. 白テープ
3. ホルダー

点検整備

12. エアクリーナーケースボルトを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

JAU65360

締め付けトルク：

ボルト：

10 N・m (1.0 kgf・m)

JCA13031

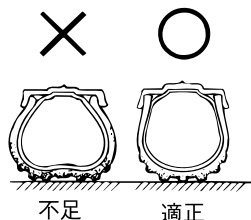
注意

V ベルトフィルターエレメントは確実に装着してください。

13. V ベルトケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。
14. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

タイヤ

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。

タイヤ空気圧（冷間時）：

1名乗車：

前輪：

200 kPa (2.00 kgf/cm²)

後輪：

225 kPa (2.25 kgf/cm²)

2名乗車：

前輪：

200 kPa (2.00 kgf/cm²)

後輪：

225 kPa (2.25 kgf/cm²)

要 点

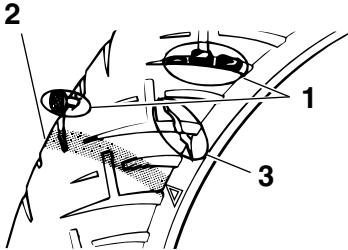
- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要 点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越えたときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28775

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要 点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が 0.8mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪

車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪 2.0mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

警告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。**指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。**取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。**異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

タイヤサイズ：

前輪：
120/70-15 M/C 56P
後輪：
140/70-14 M/C 62P

指定タイヤ：

前輪：
DUNLOP/SCOOTSMART
後輪：
DUNLOP/SCOOTSMART

点検整備

JAU29162

ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検

ブレーキレバーの遊びの点検

フロントブレーキ、リヤブレーキとも、ブレーキレバーの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11751



警告

ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761



警告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

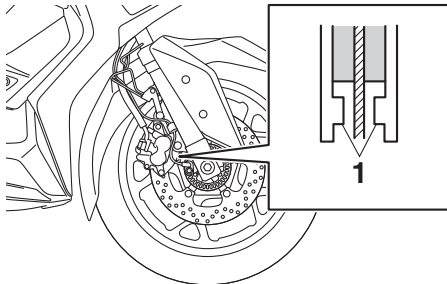
JAU29561

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドのインジケーターとブレーキディスクのすき間で摩耗の状態を点検します。

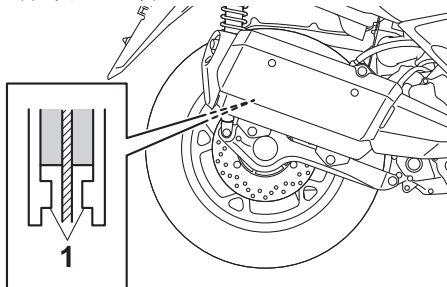
インジケーターとブレーキディスクのすき間がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドを交換してください。

<フロントブレーキ>



1. インジケーター

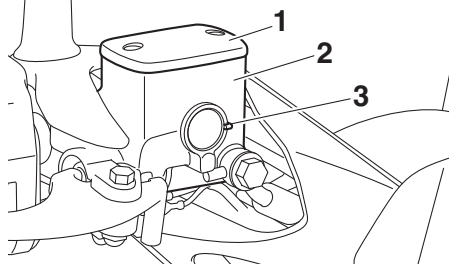
<リヤブレーキ>



1. インジケーター

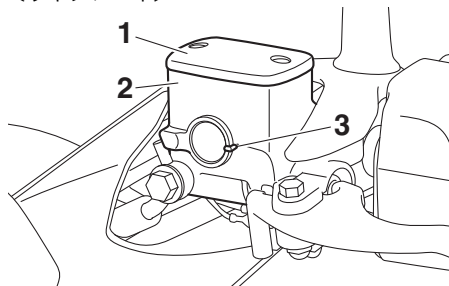
ブレーキ液量の点検

<フロントブレーキ>



1. ブレーキリザーバタンクキャップ
2. リザーバタンク
3. ロアレベル

<リヤブレーキ>



1. ブレーキリザーバタンクキャップ
2. リザーバタンク
3. ロアレベル

ブレーキリザーバタンクキャップ上面を水平にして、リザーバタンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

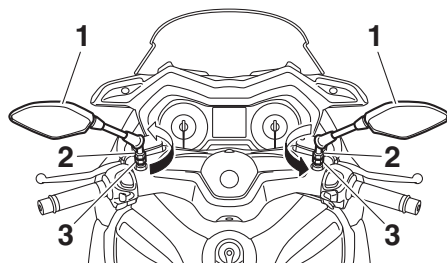
警告

- ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキシステムの液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- バックミラーを取り外すときは、バックミラー取り付けアダプターを反時計回りに回します。



1. バックミラー
2. バックミラー取り付けナット
3. バックミラー取り付けアダプター

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

要 点

- バックミラー取り付けナットは、左ネジです。
- 通常、バックミラー取り付けナットを緩める必要はありません。

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であることを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などに付いたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12142

注意

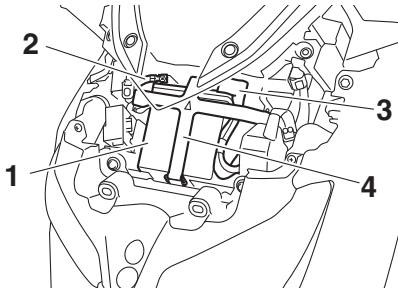
- このバッテリーは密閉式の 12V です。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。

- 長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU83110

バッテリーの取り外し

1. メインスイッチを OFF にします。
2. カバー A を取り外します。(カバーの取り外しは 7-2 ページ参照)
3. バッテリーバンドを外します。
4. - (マイナス) 側リード線を外し、次に + (プラス) 側リード線を外します。
5. バッテリーを取り外します。



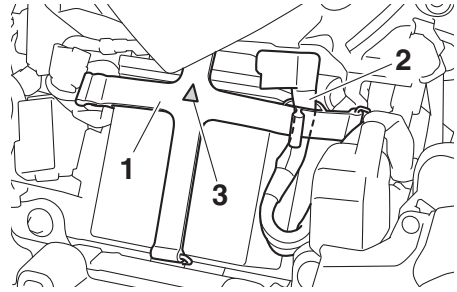
1. バッテリー
2. - リード線
3. + リード線
4. バッテリーバンド

バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

要 点

- + (プラス) 側リード線は、図のようにバッテリーバンドの孔を通してください。
- バッテリーバンドは、図のように“△”マークを上向きで取り付けてください。

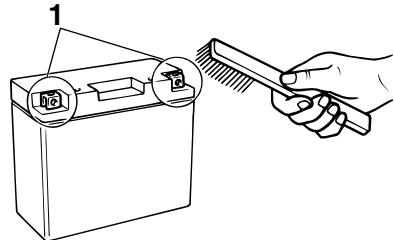


1. バッテリーバンド
2. + リード線
3. “△”マーク

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



1. ターミナル

点検整備

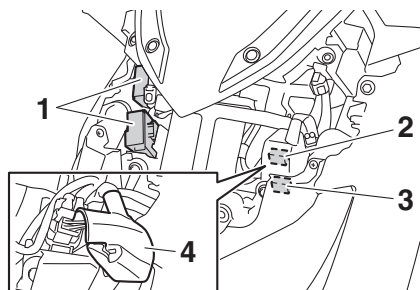
JAU78242

ヒューズ交換

メインヒューズ、系統別ヒューズはカバー A の下にあります。(7-2 ページ参照)

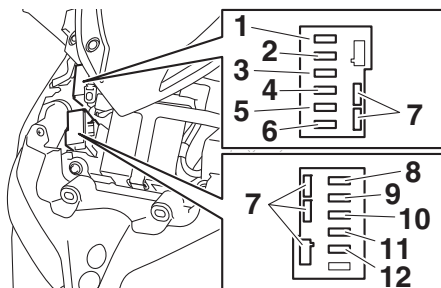
要 点

メインヒューズを交換するときは、スターターリレーカバーを外す必要があります。



1. ヒューズボックス
2. メインヒューズ
3. スペアメインヒューズ
4. スターターリレーカバー

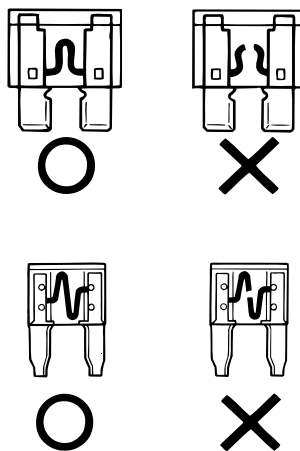
7



1. シグナルヒューズ 2
2. シグナルヒューズ
3. ABS コントロールユニットヒューズ
4. メインヒューズ 2
5. ラジエーターファンモーターヒューズ
6. バックアップヒューズ
7. スペアヒューズ
8. ABS モーターヒューズ
9. ABS ソレノイドヒューズ
10. ハザードヒューズ
11. DC ターミナルヒューズ 1
12. アンサーバックヒューズ

ヒューズが切れた時は、以下のように交換します。

1. 車の電源を OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



規定ヒューズ：

- メイン：
 - 20.0 A
- メイン 2:
 - 7.5 A
- シグナル：
 - 10.0 A
- シグナル 2:
 - 7.5 A
- ラジエーターファンモーター：
 - 7.5 A
- ハザード：
 - 7.5 A
- ABS コントロールユニット：
 - 7.5 A
- ABS モーター：
 - 30.0 A
- ABS ソレノイド：
 - 15.0 A
- アンサーバック：
 - 2.0 A
- バックアップ：
 - 7.5 A
- DC ターミナル 1:
 - 2.0 A

注意

- 交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。
- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

3. カバーを取り付けます。
4. 車の電源を ON にし、それぞれの電気装置が作動することを点検します。
5. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

灯火装置および方向指示灯の点検

1. 車両の電源を ON にします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを開始し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（7-17 ページを参照）し、異常がないときは電球を交換してください。

JCA12063

注意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（9-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

こんなときは

こんなときは、ヤマハ販売店にご相談される前に次のことを調べてください。

エンジンが始動しないときは？

次の項目を確認してください。

1. 車両の電源はONになっていますか？また、エンジンストップスイッチは“○”になっていますか？
2. ガソリンはありますか？
燃料計にてガソリン量を確認してください。
燃料計の最後のセグメントが点滅しているときは、フューエルタンクのガソリン残量が少なくなっています。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
3. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチを押しましたか？
4. スロットルグリップを回さずにスタータースイッチを押しましたか？
5. サイドスタンドを使用していませんか？

以上のことを確認してから、6-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

スターターモーターが回らないときは？

スタータースイッチを押してもスターターモーターが回らないときは、次の項目を確認してください。

1. 車両の電源はONになっていますか？また、エンジンストップスイッチは“○”になっていますか？
2. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチを押しましたか？
3. サイドスタンドを使用していませんか？

以上のことを確認してもスターターモーターが回らないときは、・・・

- ヒューズ切れが考えられます。7-17 ページを参照してヒューズを点検してください。
- ヒューズに異常がないときは、早めにヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ランプ類が点灯しないときは？

次の順序で確認してください。

1. 車両の電源が ON になっていますか？
2. 各スイッチを作動させていますか？

3. エンジンが始動できますか？

以上のことを確認してもランプ類が点灯しないときは、・・・

- ヒューズ切れが考えられます。7-17 ページを参照してヒューズを点検してください。
- ヒューズに異常がないときは、ランプ自体の球切れが考えられます。「製品仕様」のページの規格に合わせて、同じものと交換してください。

JCA12063

注意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（9-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

走行中にエンジンが止まったときは？

ガソリンはありますか？

燃料計でガソリン量を確認してください。燃料計の最後のセグメントが点滅しているときは、フューエルタンクのガソリン残量が少なくなっています。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

上記のことを確認してから、6-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

走行中、V ベルト交換表示 “V-Belt” が点滅したときは？

早めに、ヤマハ販売店で V ベルトを交換してください。

交換後、リセット操作をすると V ベルト交換表示は消灯します。

JCA12531

注意

V ベルトを交換しないまま走行すると、走行不能となるなど、故障の原因となります。

走行中、エンジンオイル交換表示 “Oil” が点滅したときは？

早めに、ヤマハ販売店でエンジンオイルを交換してください。（推奨エンジンオイルについては、8-4 ページ参照）

交換後、リセット操作をするとエンジンオイル交換表示は消灯します。

注意

オイル交換をしないまま走行すると、エンジンが故障する原因となります。

走行中、ABS 警告灯 “” が点灯または点滅したときは？

ブレーキシステムは通常のブレーキの状態になっています。急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけて、直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

スマートキーシステムが作動しないときは？

スマートキーシステムが作動しないときは、次の項目を確認してください。

- スマートキーがロックの状態になっていませんか？ 3-5 ページを参照して、スマートキーをアンロック状態に切り替えてください。
- スマートキーの電池が消耗していませんか？ 車両の電源を ON する時にキー表示灯が約 20 秒点滅したときは、電池を交換してください。（3-6 ページ参照）
- 強い電波やノイズのある場所などで使用していませんか？ スマートキーシステムは微弱な電波を使用しています。スマートキーシステムの作動を妨げる具体的な例については 3-1 ページを参照してください。
- スマートキーに電池が入っていない、または電池が正しく取り付けられていない状態ではないですか？ 電池の取り付け状態を確認してください。（3-6 ページ参照）
- 車に登録されている、専用のスマートキーを使用していますか？ 車に登録された専用のスマートキーを使用しないと、スマートキーシステムは作動しません。登録されている、専用のスマートキーを使用してください。
- 壊れたスマートキーを使用していませんか？ 3-3 ページを参照してください。壊れたスマートキーを使用した場合、スマートキーシステムは作動しません。

● バッテリーがあがっていませんか？バッテリーの電圧が低下しているか、バッテリーがあがっていると通信不良の原因になります。バッテリーを充電するか、交換してください。スマートキーシステムが作動しないときのバッテリー交換方法については、7-15 ページを参照してください。以上のことを確認してもスマートキーシステムが作動しない場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

スマートキーを使わずにエンジンを始動する方法については、7-21 ページのエマージェンシーモードを参照してください。メカニカルキーを使用してシートのロックを解除する方法については、7-21 ページを参照してください。

エンジンが停止し、「ピピピピッ ...」とアラームが鳴ったときは？

故障ではありません。

エンジン始動後、サイドスタンドを出すとエンジンは停止し、上記のアラームが約 1 分間鳴ります。

JCA22550

注意

サイドスタンドを出してエンジンを停止させたときは、必ず車の電源を OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。

要点

上記のアラームを鳴らないようにすることができます。詳しくは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU76561

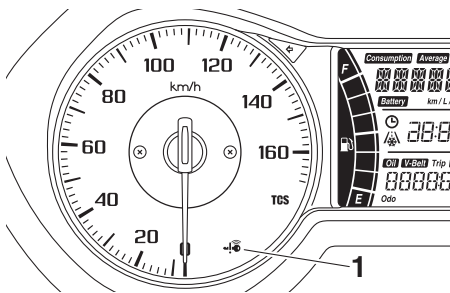
スマートキーシステムのエマージェンシーモード

スマートキーを紛失したとき、またはスマートキーの電池切れや故障などでスマートキーが使用できないときに、このモードの操作を行うことで、スマートキーがなくても車両の電源を ON にし、エンジンを始動することができます。

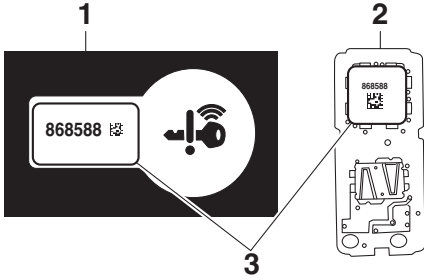
要点

各操作を行うとき、それぞれの操作で決められた時間内に操作を終了しないと、エマージェンシーモードの操作を中止します。

1. 車を安全な場所に停車させ、メインスイッチを OFF にします。
2. スマートキーシステム表示灯が 1 回点滅するまでメインスイッチノブを 5 秒押します。この操作を 3 回行くと、スマートキーシステム表示灯が 3 秒間点灯し、エマージェンシーモードに移行したことを知らせます。



1. スマートキーシステム表示灯 “”
3. スマートキーシステム表示灯が消灯後、スマートキーの内側に貼ってある ID または ID 番号カードを参照して ID を入力します。



1. ID 番号カード
2. スマートキー（内部）
3. ID 番号

4. ID の入力数値は、スマートキーシステム表示灯の点滅回数を数えて行います。操作例（ID:123456 を入力するとき）メインスイッチノブを押し続けます。

↓

スマートキーシステム表示灯が点滅を開始します。

↓



1 回点滅したところでメインスイッチノブをはなします。

↓

1 番目（ID の左端）の数値「1」が確定します。

↓

再びメインスイッチノブを押し続けます。

↓



2 回点滅したところでメインスイッチノブをはなします。

↓

2 番目（ID の左から 2 つ目）の数値「2」が確定します。

↓

以下、6 番目（ID の右端）の数値を確定するまで繰り返します。正しい 6 桁の ID を入力すると、スマートキーシステム表示灯が 10 秒間点灯します。

要 点

下記のいずれかに該当した場合は操作が無効となり、エマージェンシーモードを終了します。このとき、スマートキーシステム表示灯は 3 秒間速く点滅します。この場合は、ステップ「2」からやり直してください。

- ID の入力作業中に 10 秒以上、メインスイッチノブの操作が無いとき
- スマートキーシステム表示灯を 9 回以上点滅させたとき
- ID が正しく入力されなかったとき

5. スマートキーシステム表示灯が点灯している間にメインスイッチノブをもう一度押すと、エマージェンシーモードが完了します。スマートキーシステム表示灯が一瞬消灯したあと、再度約 4 秒点灯します。
6. スマートキーシステム表示灯が点灯している間にメインスイッチを ON にすると、通常どおり車両を操作できます。

お車の手入れ

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注意

- 洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
- ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。
- コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。

JAU27976

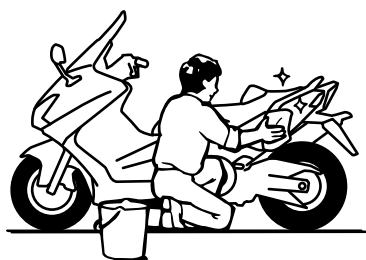
洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

ワックス：

ユニコンカークリーム



JWA11931

警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。
- 洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。
- ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。

JCA12214

注意

- エアクリナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。

- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。
- ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが十分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となる場合があります。

要 点

洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。

(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)

洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。

長期間お手入れをしないと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11951

警告

変形したり、損傷したキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注意

- 縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。
- アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。

お車の手入れ

ウインドシールドの取り扱い

JAU28051

使用上の注意

- 走行前、各部が確実に取り付けであるか、取り付けにガタがないかなどを点検してください。
- ウインドシールドの清掃は、キズをつけないように中性洗剤を使い、柔らかい布かスポンジで水洗いします。洗車後は、柔らかい布などで水分をよくふきとってください。

JWA11981

警告

ウインドシールドとメーターフードの間に物を置くと、視界を妨げたり、運転操作に影響を与えることがあります。物を置かないでください。

JCA12231

注意

- ウインドシールドにガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。
- ヒビ割れのあるウインドシールドは使用しないでください。

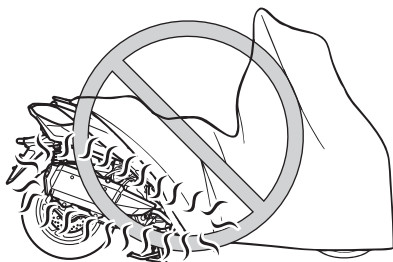
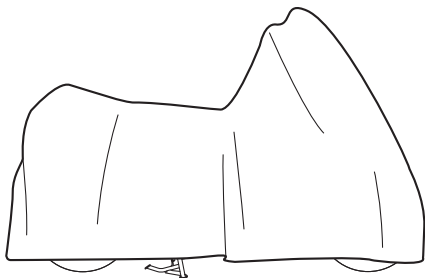
8

保管のしかた

JAU35912

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。



JCA13111

注意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- 保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。
- バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。
- 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28086

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28114

ヤマルーブプレミアムシンセティック

長期間安定した粘度特性を保ち、高い潤滑性能を発揮させるため、優れたせん断安定性を実現。また、高温となるエンジン内でのオイルの酸化をハイレベルに抑制。高回転、高負荷下でも高い油膜保持性能を発揮するオイルです。

ヤマルーブスポーツ

高せん断安定性と同時に、高い低蒸発性を実現。オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなど過酷な条件下でも優れた性能を発揮するオイルです。

ヤマルーブスタンダードプラス

清浄性、高温酸化安定性を実現。温度に左右されない粘度特性を持ち、過酷な条件にも適しています。カジュアルなタウン走行から、タフな業務使用まで対応するオイルです。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、下の URL を入力してホームページを参照するか、「ヤマハ バイク オイル」というキーワードで検索してください。

<http://www.ysgear.co.jp/mc/>

ヤマハ バイク オイル

検索



製品仕様

寸法:

全長:
2185 mm
全幅:
775 mm
全高:
1415/1465 mm
シート高:
795 mm
軸間距離:
1540 mm
最低地上高:
135 mm

重量:

車両重量:
179 kg
分布荷重 (前):
76 kg
分布荷重 (後):
103 kg
車両総重量:
289 kg
分布荷重 (前):
96 kg
分布荷重 (後):
193 kg
乗車定員:
2 名

性能:

定地燃費 (国土交通省届出値):
40.7 km/L/60 km/h
最小回転半径:
2.6 m
最高出力:
17 kW (23 PS)/7000 r/min
最大トルク:
24 N・m (2.4 kgf・m)/5500 r/min

エンジン:

行程:
4 ストローク
冷却方式:
水冷
動弁機構:
SOHC
気筒数:
単気筒

総排気量:

249 cm³
内径 × 行程:
70.0 × 64.9 mm
圧縮比:
10.5 : 1
エアフィルターエレメント:
湿ろ紙
クラッチ形式:
乾式, 遠心, シュー
変速機形式:
V ベルト式無段変速
始動方式:
セルフ式

車体:

フレーム形式:
バックボーン
キャスター:
26.5 度
トレール:
95 mm

ステアリングシステム:

ハンドル切れ角 (左):
41.0 度
ハンドル切れ角 (右):
41.0 度

燃料:

種類:
無鉛レギュラーガソリン
フューエルタンク容量:
13 L

フロントブレーキ:

ブレーキ形式:
油圧式シングルディスクブレーキ
パッド厚さ:
5.3 mm
使用限度:
0.8 mm
指定ブレーキフルード:
BF-4 (DOT-4)

リヤブレーキ:

ブレーキ形式:
油圧式シングルディスクブレーキ
パッド厚さ:
6.7 mm
使用限度:
0.8 mm

指定ブレーキフルード：
BF-4 (DOT-4)

フロントサスペンション：

種類（前）：
テレスコピック
スプリング：
コイルスプリング
ショックアブソーバー：
オイルダンパー
ホイールトラベル（前）：
110 mm

リヤサスペンション：

種類（後）：
ユニットスイング
スプリング：
コイルスプリング
ショックアブソーバー：
オイルダンパー
ホイールトラベル（後）：
79 mm

フロントタイヤ：

種類：
チューブレス
サイズ：
120/70-15 M/C 56P
メーカー／銘柄：
DUNLOP/SCOOTSMART

リヤタイヤ：

種類：
チューブレス
サイズ：
140/70-14 M/C 62P
メーカー／銘柄：
DUNLOP/SCOOTSMART

動力伝達機構：

1 次減速比：
1.000
2 次減速比：
7.589 (48/18 x 37/13)
変速比：
2.458-0.767 :1

エレクトリカル：

電圧：
12V
点火方式：
TCI

バルブワット数：

ヘッドライト：
LED
ブレーキ / テールランプ：
LED
方向指示灯（前）：
10.0 W
方向指示灯（後）：
10.0 W
番号灯：
5.0 W
メーター灯：
LED
マーカーランプ：
LED
方向指示器表示灯：
LED
ヘッドライト上向き表示灯：
LED
ABS 警告灯：
LED
エンジン警告灯：
LED
スマートキーシステム表示灯：
LED
トラクションコントロールシステム表示灯：
LED

エンジンオイル：

推奨オイル：
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス

エンジンオイル量：

オイル交換時：
1.50 L
オイルフィルター取り外し時：
1.60 L

ファイナルギヤオイル：

推奨オイル：
ヤマルーブギヤオイル
オイル量：
0.20 L

冷却水容量：

リザーブタンク（FULL レベルまで）：
0.18 L
ラジエーターと全ての経路：
1.10 L

製品仕様

ケーブルとレバーの遊び：

スロットルグリップ遊び：
3.0-5.0 mm

タイヤ空気圧（冷間時）：

1 名乗車：

前輪：

200 kPa (2.00 kgf/cm²)

後輪：

225 kPa (2.25 kgf/cm²)

2 名乗車：

前輪：

200 kPa (2.00 kgf/cm²)

後輪：

225 kPa (2.25 kgf/cm²)

バッテリー：

バッテリー型式：

GTZ8V

バッテリー容量：

12 V, 7.0 Ah (10 HR)

スパークプラグ：

メーカー / 型式：

NGK/LMAR8A-9

プラグギャップ：

0.8-0.9 mm

ヒューズ容量：

メイン：

20.0 A

メイン 2:

7.5 A

DC ターミナル 1:

2.0 A

シグナル：

10.0 A

シグナル 2:

7.5 A

ラジエーターファンモーター：

7.5 A

ハザード：

7.5 A

ABS モーター：

30.0 A

ABS ソレノイド：

15.0 A

ABS コントロールユニット：

7.5 A

バックアップ：

7.5 A

アンサーバック：

2.0 A

JAU36643

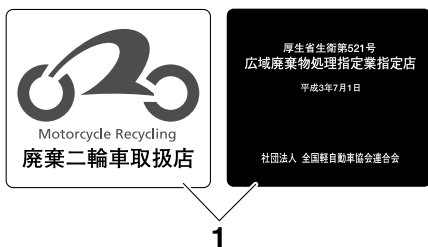
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

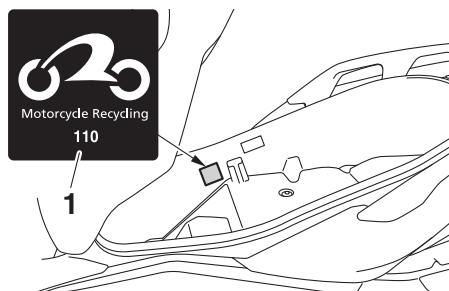
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはありません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうか不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。

ヤマハ発動機（株） 二輪車リサイクルシステム

<https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/>
公益財団法人 自動車リサイクル促進センターホームページ

<http://www.jarc.or.jp/motorcycle/>

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

サービスマニュアル 部品番号：

QQS-CLT-000-BG6

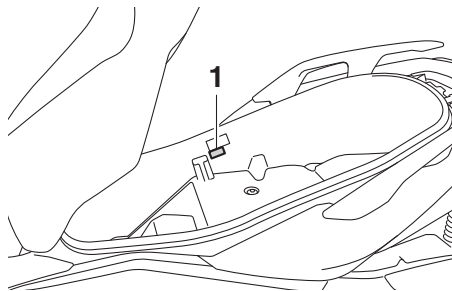
車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、トランク右側に貼り付けてあります。



1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は

XMAX250

モデルラベル

製品仕様を示しています。

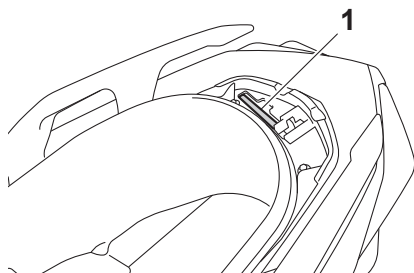
○

カラーリングを示しています。

●

車台番号

JAU50501

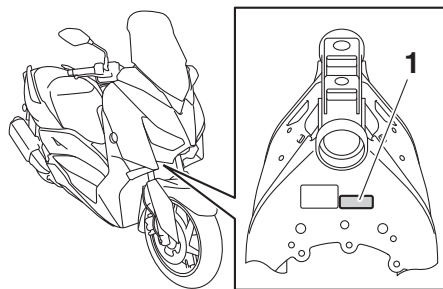


1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

型式認定番号

JAU50521

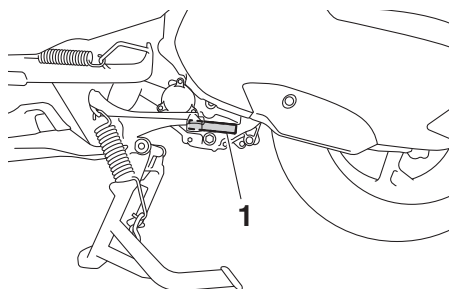


1. 型式認定番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

原動機番号

JAU50511

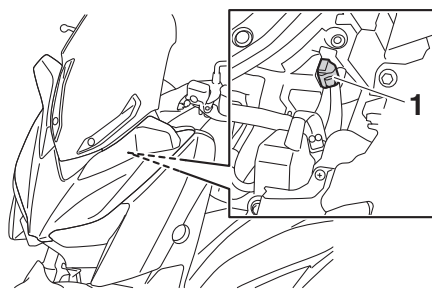


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

故障診断コネクタ

JAU73861



1. 故障診断コネクタ

この車には故障診断コネクタが搭載されています。

車両情報の記録に関して

JAU74841

この車両に搭載されているコンピューターは、故障診断や調査、開発を目的として、車両情報を記録しています。
記録された情報は、車両の点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、ヤマハに送信されます。

モデルによって異なりますが、記録される主な情報は次のとおりになります。

- 車両の状態やエンジンの使用状況
- 排気ガスに関する情報

ユーザー情報

記録された情報は、次の場合を除き第三者へ開示されることはありません。

- お客様の同意をいただいた場合
- 法的に求められた場合
- ヤマハが裁判で使用する場合
- 車両や個人を特定することなく、ヤマハが統計調査などに使用する場合

あ

- あなた自身と同乗者のために.....1-1
アフターケア用品について.....8-4

い

- イグニッションサーキット
カットオフシステム.....4-26

う

- ウインドシールド.....4-21
ウインドシールドの取り扱い.....8-3
運行において異常が認められた
箇所の点検.....7-19

え

- ABS 警告灯.....4-1
エアクリナーエレメント、
V ベルトフィルターエレメント.....7-8
ABS.....4-14
エンジンオイル.....7-3
エンジン警告灯.....4-1
エンジン始動.....6-1
エンジンのかかり具合、
異音の点検.....7-5

か

- 加速と減速.....6-3
型式認定番号.....10-3
カバーの取り外し、取り付け.....7-2
環境・住民の方との調和のために.....1-6

き

- キャストホイールの取り扱い.....8-2

け

- 警告灯と表示灯.....4-1
原動機番号.....10-3

こ

- 故障診断コネクター.....10-3
小物入れとトランク.....4-19
こんなときは.....7-19

さ

- サービスツール.....7-2
サービスマニュアル（別売）の
紹介.....10-2
サイドスタンド.....4-26

し

- 車体各部の給油脂状態の点検.....7-15
車台番号.....10-3
車両情報.....10-2
車両情報の記録に関して.....10-3
書類入れ.....4-19

す

- スターター／エンジンストップ
スイッチ.....4-11
スタンディングハンドル.....4-25
スピードメーター.....4-2
スマートキーおよび
メカニカルキーの取り扱い.....3-3
スマートキーシステム.....3-1
スマートキーシステムの
エマージェンシーモード.....7-21
スマートキーシステムの概要.....3-1
スマートキーシステムの作動範囲.....3-2
スマートキーシステム表示灯.....4-1
スマートキー操作のしかた.....3-5
スマートキーの電池交換のしかた.....3-6

せ

- 洗車.....8-1

た

- タイヤ.....7-11
タコメーター.....4-3

ち

- 駐車.....6-5

て

- DC ジャック.....4-28
低速、加速の状態の点検.....7-6
点検整備の実施.....7-1

と

- 灯火装置および方向指示灯の点検.....7-18
盗難警報器（別売アクセサリ）.....4-10
トラクションコントロール
システム.....4-15
トラクションコントロールシステム
表示灯.....4-1
TRIP/INFO スイッチ.....4-12

な

- ならし運転.....6-4

に

- 日常点検箇所／点検内容.....5-1
日常点検の実施.....5-1
二輪車を廃棄する場合は？.....10-1

ね

- 燃料.....4-18

は

- バックミラー.....7-14
発進.....6-2
バッテリー.....7-15
ハンドル位置の調整.....4-24

索引

ハンドルスイッチ	4-11
ひ	
ヒューズ交換	7-17
ふ	
ファイナルギヤオイルの交換時期.....	7-5
フューエルタンクキャップ	4-16
ブレーキ	6-3
ブレーキ液量の点検	7-14
ブレーキパッドの点検	7-13
ブレーキレバーの遊び、 きき具合の点検	7-13
フロントブレーキレバー	4-13
へ	
ヘッドライト上下切り替え／ パッシングライトスイッチ	4-11
ヘルメットホルダー	4-18
ほ	
ホーンスイッチ	4-11
方向指示器スイッチ	4-11
保管のしかた	8-3
歩行者と他の車のために	1-5
ま	
マルチファンクション ディスプレイ	4-3
め	
メインスイッチ	3-7
も	
モデルラベル	10-2
り	
リヤクッションの調整	4-24
リヤブレーキレバー	4-13
れ	
冷却水	7-6

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。



QQS-CLT-100-BG6

PRINTED IN INDONESIA
2017.07